

7. 水源地域動態

7. 水源地域動態

7.1 評価の進め方

7.1.1 評価方針

水源地域動態の評価は大きく2つの流れの評価を行う。一つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理し、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきか等についての評価を行う。

もう一つの流れとして、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行うものである。ダム周辺に整備された施設等が十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているか等の評価を行う。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討する。

7.1.2 評価手順

評価方針のとおり大きく2つの流れにより、評価を行い、とりまとめることとする。検討手順を図 7.1.2-1 に示す。

(1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握する。

(2) ダム事業と地域社会の変遷

ダム建設が直接地域社会に与えたインパクト、周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の係わりを把握する。周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等は、ダムの影響とまでは言えないまでも関連がありそうな事項を抽出する。これらのまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握する。

(3) ダムと地域の関わりに関する評価

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」等も参考にしながら、地域におけるダムの位置づけについて考察を行う。さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年程度のダム管理者と地域の交流事項等について整理し、管理者の活動等について評価する。

(4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況等について整理を行い、加えて、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」により新たに整備された施設等についても整理する。

なお、原則は、「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めることとする。

また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行う。

(5) 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理する。また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想をもっているかについても整理し、利用者の視点からのダム周辺施設（環境整備）の評価を行う。

(6) その他関連事項の整理

水源地域の社会動態に関する既往検討資料、または景観検討資料、施設の維持管理に関する検討資料等、関連する資料があれば整理する。

(7) まとめ

以上より、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特徴、課題等について整理する。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめるものとする。

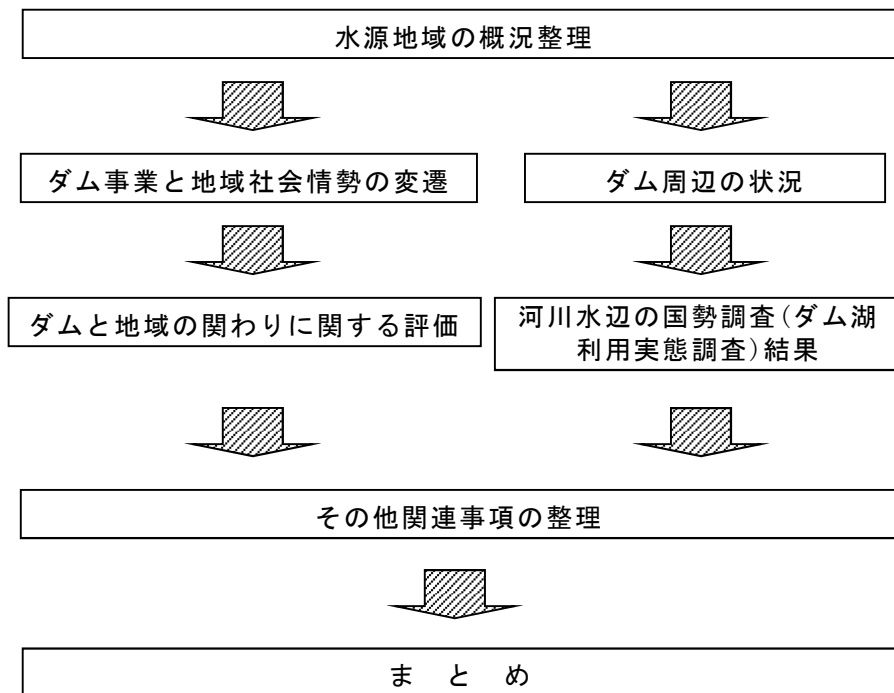


図 7.1.2-1 検討手順

7.1.3 必要資料(参考資料)の収集・整理

ダム周辺の社会情勢、利用、整備状況等に関わる資料等、まとめに必要となる資料について収集し、リストを作成する。収集した資料は「7.8 文献リストの作成」において整理する。

7.2 水源地域の概況

7.2.1 水源地域の概要

(1) 水源地域の概況

日吉ダム及び日吉ダムの水源地域は京都府内に位置している。貯水池周辺は南丹市、上流域の殆どは京都市となっている。

南丹市は平成18年1月1日に園部町、八木町、日吉町、美山町の4町が合併し誕生した。また、京北町は平成17年4月1日に京都市と合併している。

なお、旧自治体では、京都市、旧日吉町、旧八木町、旧京北町の1市3町が水源地域を構成していた。

水源地域を構成する自治体を図7.2.1-1に示す。

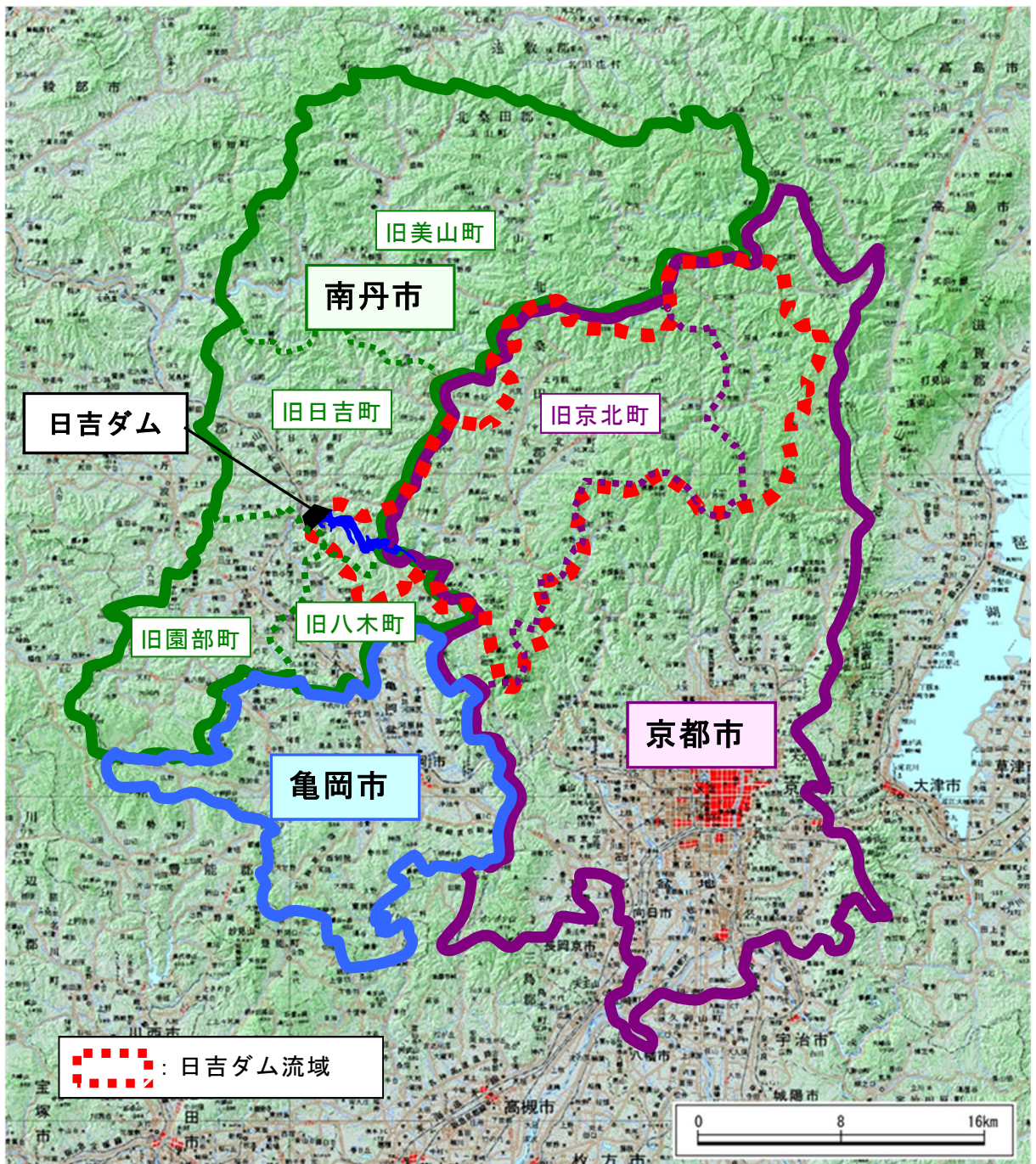


図 7.2.1-1 水源地域を構成する自治体

(2) 人口の推移

日吉ダムの水源地域は京都府内に位置し、貯水池周辺は南丹市、上流域のほとんどは京都市となっている。

南丹市は平成18年1月1日に園部町、八木町、日吉町、美山町の4町が合併し誕生した。また、京北町は平成17年4月1日に京都市と合併している。

なお、旧自治体では、京都市、日吉町、八木町、京北町の1市3町が水源地域を構成していた。このうち流域内の多くを占める3町の人口をみると人口は減少傾向にあり、昭和40年から令和2年までに4割の減少がみられる。

人口推移を、表7.2.1-1及び図7.2.1-2に示す。

表 7.2.1-1 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の人口の推移(単位:人)

旧町名	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
旧日吉町	7,871	7,040	6,684	6,634	6,310	5,862	6,207	6,219	5,951	5,446	4,940	4,615
旧京北町	9,152	8,211	7,774	7,312	7,184	7,087	7,080	6,686	6,259	5,633	5,127	4,767
旧八木町	10,693	10,551	10,620	10,802	10,624	10,290	9,905	9,391	8,869	8,138	7,615	7,109
計	27,716	25,802	25,078	24,748	24,118	23,239	23,192	22,296	21,079	19,217	17,682	16,491

(出典：国勢調査報告(総務省統計局))

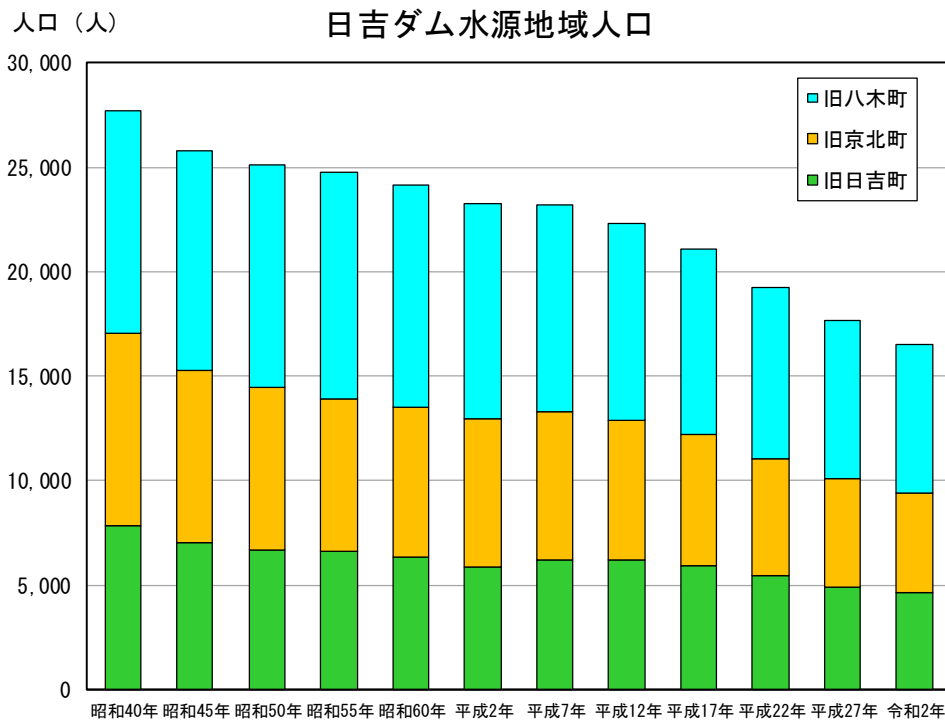


図 7.2.1-2 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の人口の推移

産業別就業者数の推移を見ると、第1次産業の就業者数は昭和40年以降減少傾向にあり、第2次産業の就業者数は平成7年以降減少傾向にある。第3次産業の就業者数は、平成17年以降、減少傾向に転じているが、全体に占める割合は高くなっている。(平成27年時点で3町計4,945人で約63%)

旧自治体の産業別就業人口の推移を、表7.2.1-2及び図7.2.1-3に示す。

表 7.2.1-2 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の産業別就業者数の推移

旧町名	区分	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
旧日吉町	第1次産業	2,126	1,875	1,299	948	664	547	573	391	443	377	288
	第2次産業	689	886	1,033	1,038	1,073	998	1,071	918	795	607	582
	第3次産業	1,266	1,287	1,307	1,425	1,369	1,304	1,520	1,523	1,621	1,425	1,422
旧京北町	第1次産業	2,532	2,249	1,407	1,071	856	651	603	504	435	373	319
	第2次産業	596	908	1,207	1,183	1,082	1,070	1,007	802	707	566	471
	第3次産業	1,443	1,451	1,527	1,577	1,634	1,651	1,790	1,774	1,742	1,551	1,348
旧八木町	第1次産業	2,538	2,220	1,504	1,155	966	815	681	604	602	477	399
	第2次産業	1,134	1,391	1,503	1,578	1,597	1,655	1,668	1,393	1,076	867	803
	第3次産業	2,139	2,343	2,498	2,765	2,677	2,716	2,670	2,555	2,619	2,282	2,175
計	14,463	14,610	13,285	12,740	11,918	11,407	11,583	10,464	10,040	8,525	7,807	

(出典：国勢調査報告(総務省統計局))

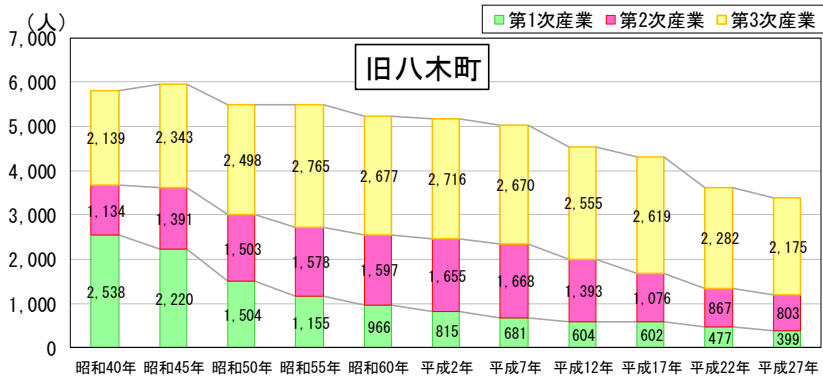
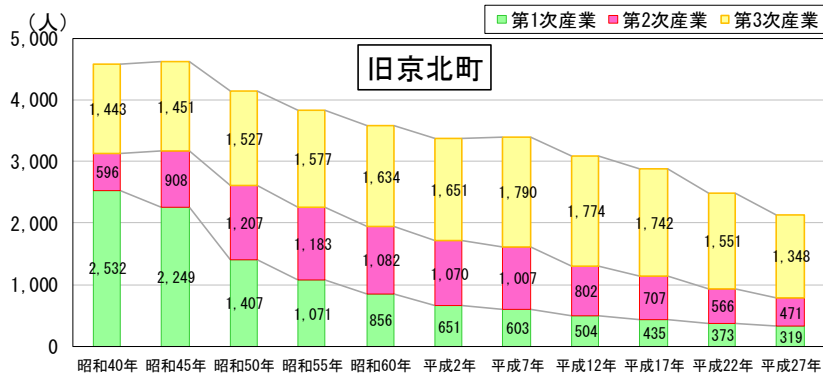
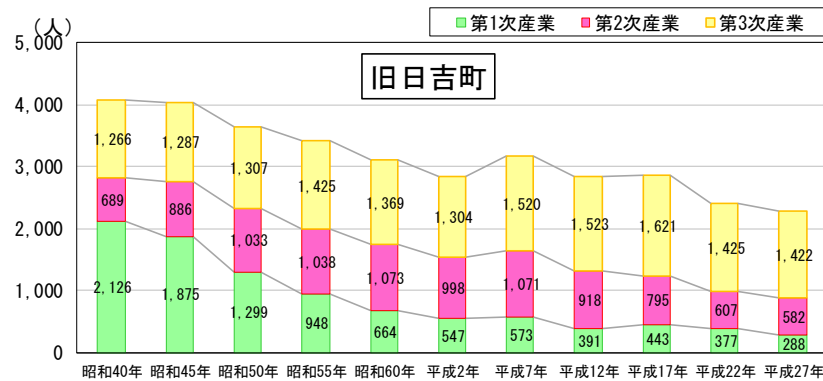


図 7.2.1-3 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の産業別就業者数と割合の推移

(3) 土地利用と産業

日吉ダム流域内の土地利用の推移をみると、山林が全体の殆どを占めている。

日吉ダム水源地域は、全国でも屈指の林業地となっている。中世より御所への木材を貢納していた禁裏御料地で、京都への木材供給地として栄えてきた地域である。苗木づくりから植林、保育、伐採、搬出に至るまで、長い歴史に裏付けられた知識と技術によって、スギ、ヒノキを中心とする優良な木材を生産している。また「北山杉」で知られる磨丸太の産地としても有名で、工芸品や杉葉染などが特産品となっている。

また、農業では豆類の栽培が盛んで、納豆などの加工食品も特産品に挙げられる。

日吉ダム流域内の土地利用状況を図 7.2.1-4、図 7.2.1-5 に示す。

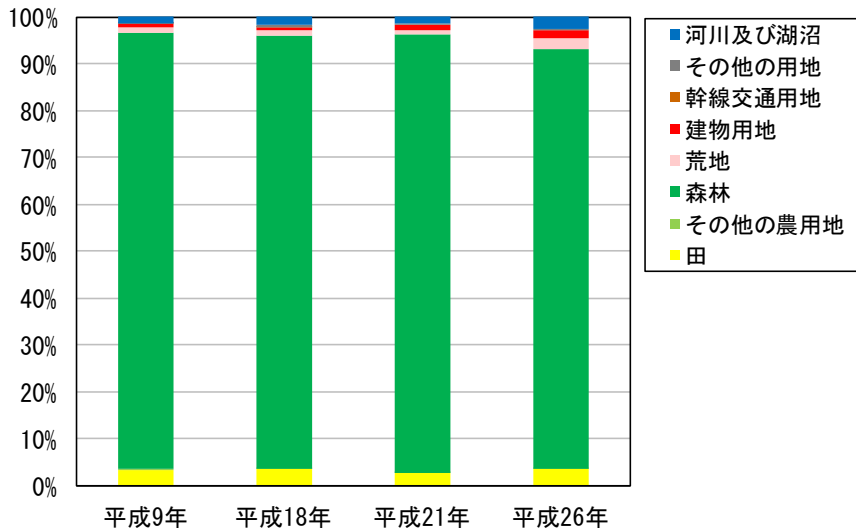


図 7.2.1-4 流域内の土地利用の推移

(出典：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ)

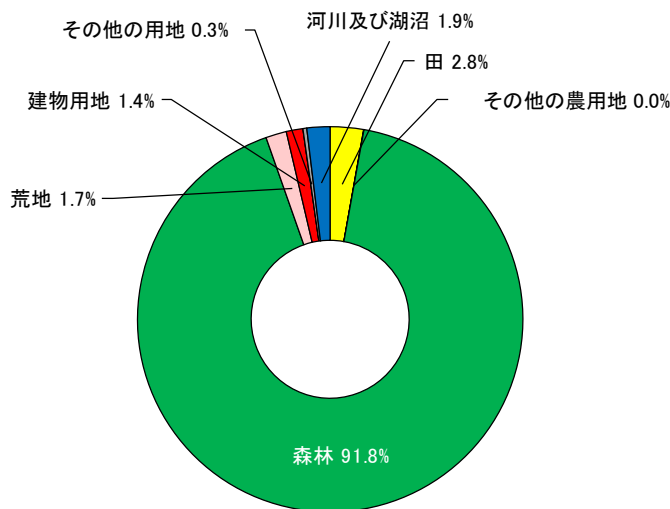


図 7.2.1-5 流域内の土地利用割合 (平成 26 年)

(出典：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ)

単位:km²

	耕作地		山林		市街地		水面		合計
	田	その他の農用地	森林	荒地	建物用地	幹線交通用地	その他の用地	河川及び湖沼	
合計	8.1	0.1	266.4	5.1	4.0	0	1.0	5.6	290.22

7.2.2 ダムの立地特性

(1) ダムへのアクセス

周辺都市からの交通網を、図 7.2.2-1 に示す。

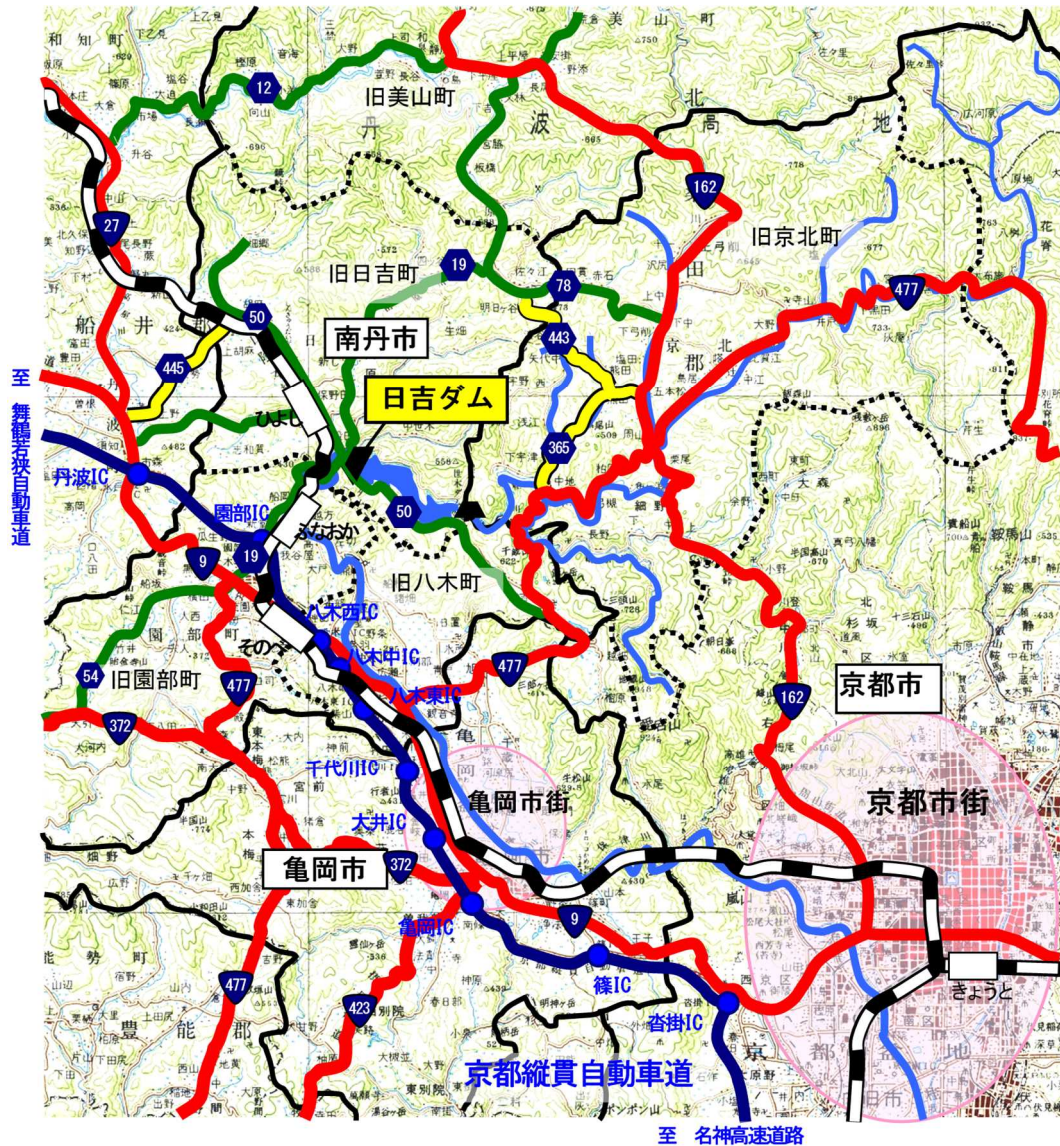


図 7.2.2-1 周辺都市からの交通網

主要幹線道路は京都縦貫自動車道に加え、山陰方面を結ぶ国道9号、若狭方面を結ぶ国道162号、舞鶴方面を結ぶ国道27号、滋賀県と兵庫県川西市を連絡する国道477号等でネットワークが形成されている。特に京都縦貫自動車道については、沓掛IC～大山崎JCT・ICが開通し名神高速道路と直結、丹波IC～京丹波わちICが開通、舞鶴若狭自動車道も全線開通し、更に利便性・アクセス性が高まっている。

また、鉄道はJR山陰本線の電化開業に続き、平成22年には園部駅までが複線化開業され、利便性が向上している。

(出典：平成13年度 日吉ダム水源地域ビジョン策定業務 報告書 平成14年3月に加筆)

(2) ダム周辺の観光施設等

周辺地域の観光の特徴は、豊かな自然を活用したキャンプ場や野外活動施設が多く、また、京都市に隣接していることから古い神社や寺も見られる。

流域内の主な観光施設等位置図を図 7.2.2-2 に、主な観光施設の概要を表 7.2.2-1 に示す。

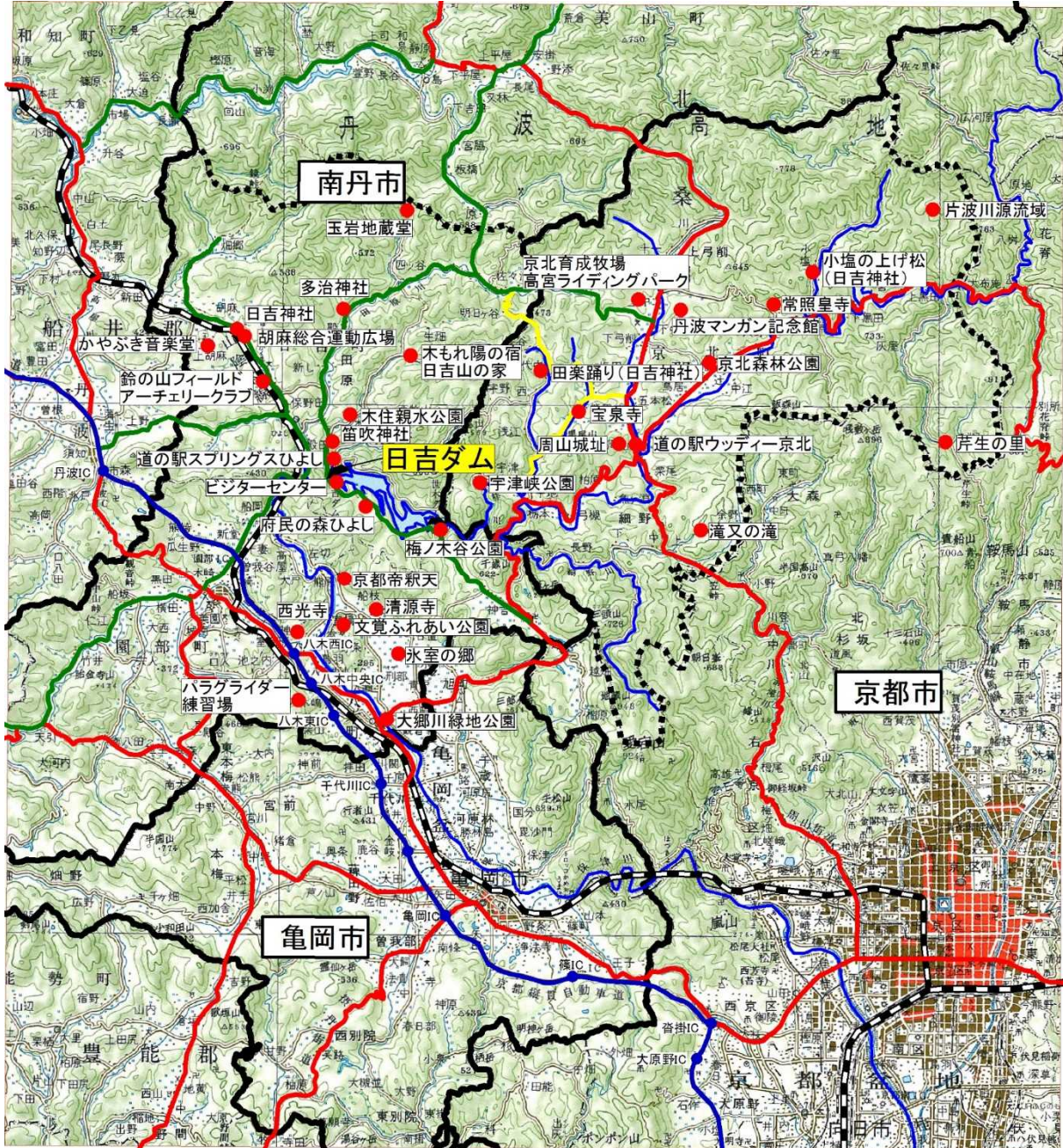


図 7.2.2-2 周辺の観光施設等位置図

(出典：日吉ダム周辺探訪マップ 南丹さんぽ)

表 7.2.2-1(1) 周辺地域の主な観光施設の概況

旧町名	観光施設名	概要
旧日吉町	玉岩地藏堂・海老坂峠 	若狭の八百比丘尼が地藏菩薩を背負いこの地で休憩した際に、地藏菩薩が動かなくなりそのまま安置されたと伝えられている。
	多治神社 	毎年5月3日に、五穀豊穡を祈願して行われる「御田」と呼ばれる御田植えまつりが有名である。
	木もれ日の宿 日吉山の家 	研究室や食堂、バーベキューハウス、テニスコート、キャンプ場があり、林に囲まれた小川のある環境は抜群。家族連れや合宿にも最適である。
	日吉神社 	毎年10月に、厄払いと五穀豊穡を祈願して馬駆けが行われる。
	かやぶき音楽堂 	ピアノデュオ連弾で世界的に有名なザイラー夫妻のコンサートホール。
	笛吹神社の大杉 	御神木は幹回り6.39m、樹高46mの杉の巨木で、京都府二百選に選ばれている。
旧京北町	常照皇寺	光厳天皇氣に開山した禅宗の寺。京都府歴史的な自然環境保全地域に指定。 天然記念物「九重桜」
	ウッディー京北 	森林・林業と木製品とのふれあい、学びあいの展示館。樹齢600年の「大径木」を展示。
	京北森林公園 	森林用歩道やアスレチックが整備され、バーベキューやキノコ狩り、シイタケの原木栽培等の体験ができる。
	滝又の滝	高さ25mの滝の眺めは壮観で、四季おりおりの風景は格別。
	芹生の里（せりょうのさと）	歌舞伎「菅原伝授手習鑑」の寺子屋で名高い伝説の地。菅原道真の遺児慶能を教育した式部源藏の屋敷跡がある。
	片波川源流域（伏状台杉）	片波川源流域一帯は、今日まで大切に残されてきた西日本屈指の巨大杉群落の森。樹齢千年を越す巨大杉が群生。
	周山城址	周山の西北「城山」に、約400年に明智光秀が山岳城を築いたといわれ、石垣跡が面影を留めている。



表 7.2.2-1(2) 周辺地域の主な観光施設の概況

旧 八 木 町	清源寺		千体仏造像のために各地を遍歴した木喰（もくじき）上人の十六羅漢像が安置されている。
	氷室の郷		木工室や紙すき室があり、農村文化の体験ができる。
	京都帝釈天		空海によって伽藍が整えられたと参道に108つの鐘が並び、山々に音色が響く。

7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷

日吉ダム事業の進行と相まって、周辺の道路事業が進められたことにより、利便性が向上している。日吉ダム完成後のダム周辺でのイベント（の継続）や、「道の駅スプリングスひよし」などへの来訪にも効果的であったと考えられる。

日吉ダム事業と地域社会情勢の変遷を表 7.3-1 に示す。

表 7.3-1(1) 日吉ダム事業と地域社会情勢の変遷（1959年－1976年）

年代	日吉ダム事業	インフラ整備事業	住民活動・交流活動	その他
1959年 (S34)				伊勢湾台風(台風15号)、亀岡総雨量148ミリ(25日10時-26日24時)、保津橋最高水位6.4m(27日4時)、家屋全半壊10戸、浸水398戸、湛水600万トンで田畑被害520ha
1960年 (S35)				台風15号
1961年 (S36)				建設省、宮村ダム(日吉ダム)建設構想を発表(堰堤高さ70.4m、巾430m、貯水容量6,600万m ³ 、計画流量2,200m ³ /s) 水資源開発促進法、水資源開発公団法公布(公団昭和37.5.1発足)
1963年 (S38)				亀岡市議会、上桂川逆流対策特別委員会設置(昭和39.8上桂川治水対策特別委員会と改称)
1964年 (S39)			船井郡産業まつり	京都市、亀岡市、上桂川改修期成同盟会に加盟 台風20号により8,000万円の被害を受ける
1965年 (S40)			町合併10周年記念式典を園部中学校講堂で挙行政	府、近畿地建「上桂川治水調整全体計画」策定 台風23号、24号、9.14大雨により被害額3億3千万円
1966年 (S41)		府道園部篠山線(河原町-天引)舗装完成祝賀会 園部電報電話局舎新築、電話交換機が自動化 船岡駅行き違い線路完成		園部・摩気・西本梅・川辺の4農協が合併し園部農業協同組合が発足
1967年 (S42)				京都府下暴風雨
1968年 (S43)		熊原簡易水道完成式		近畿地建、桂川治水対策「日吉ダム建設計画」を地元で説明 淀川水系工事実施基本計画改訂、枚方の基本高水17,000m ³ /s、計画高水流量12,000m ³ /s
1969年 (S44)		船岡簡易水道起工式		園部区を三つの行政区(小桜町・美園町・栄町)に分ける
1970年 (S45)		船岡簡易水道完成通水始まる	町合併15周年記念式典を園部中学校体育館で挙行政 町の花に「梅」を選定 第1回産業まつり開催	
1971年 (S46)	3月日吉ダム実施計画調査開始			町内3森林組合(園部・摩気・西本梅)が合併、役場内で業務開始
1972年 (S47)	9月基本計画決定 宮村ダム建設、水資源開発法による「淀川水系水資源開発基本計画」に組入れ、日吉ダムと改称。	宮村ダム建設、水資源開発法による「淀川水系水資源開発基本計画」に組入れ、日吉ダムと改称。		台風20号 京北地方被害大 豪雨により8,000万円の被害 台風20号により2億6,000万円の被害
1973年 (S48)	1月水資源開発公団日吉ダム調査所開設			
1975年 (S50)		姫路京都間が国道に昇格(国道372号) 高杭峠(小山西-口人)改修工事完成	第1回園部町文化祭を開催	西部簡易水道(船阪)給水開始
1976年 (S51)			夏の商工祭「花火大会」が中止となり、「水と光の祭典」となる	

表 7.3-1(2) 日吉ダム事業と地域社会情勢の変遷(1977年-1995年)

西暦	日吉ダム事業	インフラ整備事業	住民活動・交流活動	その他
1977年(S52)		高屋峠の第1次拡幅切り下げ工事完成 高屋峠改修工事完成	生身天満宮「管公神忌1075年大祭」	
1978年(S53)		大河内簡易水道給水開始 普及率91.5%	船岡駅開設25周年記念式典挙行	大干ばつ、被害額6,000万円
1979年(S54)		東部簡易水道完成	中央公民館竣工記念文化祭を挙行	
1981年(S56)		原山峠(園部町竹井一篠山町原山)改良工事完成 高杭峠(小山西一人口)舗装工事完了 大見谷峠(園部町大戸一八木町室河原)改良工事完成 天引簡易水道改良工事完成 国道9号バイパス起工式	町合併25周年記念式典を中央公民館で挙行	日吉ダム水没者団体(日吉ダム対策天若同盟、中ダム対策協議会)水資源開発公団と京都府に補償基本要請書を提出
1982年(S57)	8月日吉ダム建設所開設 9月実施計画認可		第1回とんどまつり開催 第1回そのべ七夕まつり開催	水資源開発公団「日吉ダム建設事業実施方針」を発表 水資源開発公団、日吉・八木・京北の水没者団体に損失補償基準を提示 口丹波地方6年ぶりの記録的大雪に見舞われる 台風10号口丹波地方に大被害をもたらす
1983年(S58)		大河内簡易水道完成 山陰本線複線電化事業のひとつ、地蔵トンネル貫通	第1回はばたく園部のスポーツ推進大会を開催	台風10号の豪雨により2億円の被害
1984年(S59)	9月一般損失補償基準妥結(日吉町及び京北町)		第20回記念園部町球技大会	日吉ダム水没補償につき地元住民と水資源開発公団と基本的合意(9月19日調印) 30年ぶりに府南部に大雪警報、口丹波地方は記録的な大雪
1985年(S60)	6月一般損失補償基準妥結(八木町)	国道9号バイパス新老ノ坂トンネル貫通	新園部町発足30周年記念式典を中央公民館で挙行 85そのべ夏まつりで10年ぶりに花火が復活 「宵待ちコンサートinるり溪」を開催	
1988年(S63)		京都縦貫自動車道(京都一亀岡市千代川)開通 府道川西園部線・町道竹井口司線バイパス開通 府道園部能勢線バイパス開通式	第1回そのべれんげ祭開催 第43回国民体育大会京都国体を開催(ライフル射撃・ゲートボール)	建設省の「生涯学習のむら建設推進事業」モデル団体の指定を受ける
1989年(H1)		JR山陰本線(嵯峨-馬堀間)複線化完成		
1990年(H2)		法京飲料水供給施設完成 水道普及率100%に 京都縦貫自動車道・熊崎トンネル貫通	園部町プレ植樹祭をるり溪フラワーガーデンで開催 町制施行101年・新園部町発足35周年記念式典を挙行、「マスコットフラワー」を選定発表 KIそのべ世界芸術祭を町中央公民館で開催	
1991年(H3)			「第1回とっておきのウォークラリー」開催	
1992年(H4)	2月仮排水トンネル工事着手	京都縦貫自動車道・瓜生野トンネル貫通 京都縦貫自動車道・新観音トンネル貫通		
1993年(H5)	2月公共補償の基本協定締結 2月日吉ダム本体工事着手 4月「地域に開かれたダム」指定	府道川西園部線が国道477号に昇格	「ねんりんピック'93京都」開催	
1994年(H6)	10月本体コンクリート打設開始 11月定礎式	国道372号バイパス(亀岡市宮前町-園部町南八田)開通式	「園部 花と食の祭典」開催	
1995年(H7)	2月「地域に開かれたダム整備計画」認定	府道大河内口八田線糸人バイパス開通式	そのべフラワーフェスタinるり溪 第1回スウィートシネマパラダイス(映画上映会)開催	

表 7.3-1(3) 日吉ダム事業と地域社会情勢の変遷 (1996年-2012年)

西暦	日吉ダム事業	インフラ整備事業	住民活動・交流活動	その他
1996年 (H8)	11月本体コンクリート打設完了	京都縦貫自動車道(亀岡-丹波) 開通	園部公園陸上競技場竣工式 園部スポーツフェスティバル・そのべ収穫祭開催	豪雨来襲、町内でも浸水被害相次ぐ
1997年 (H9)	3月試験湛水開始	京都交通二本松線運行開始	全国高校総体が京都で開催・園部町では男子バレーボール	
	11月試験湛水終了			
1998年 (H10)	3月竣工式 4月管理開始 ビジターセンター、インフォギャラリー、スプリングスひよし開設		第1回日吉ダムマラソン開催 10月「スプリングスひよし」オープン	
1999年 (H11)		府道園部能勢線大河内バイパス 開通	スプリングスフェスタ開催	
		都市計画道路内林小山東町線が全線開通	全国花と緑のフェスティバルin そのべ	
		町道仁江穴人線開通	本町繁栄会のクリスマス企画「本町ルミナリエ」点灯	
2000年 (H12)		町道横田大西線完成	新園部町発足45周年記念式典を園部国際交流会館で挙行	
2001年 (H13)		京都縦貫自動車道4車線化(千代川-八木西)・南丹パーキングエリア完成式	第1回そのべビートフェスティバル	
2002年 (H14)	3月日吉ダム水源地域ビジョン策定	京都縦貫自動車道(八木西-園部)4車線化完成式典		
		JR山陰線京都園部間複線化起工記念式典		
2003年 (H15)		国道372号(天引道路)開通式		
2004年 (H16)		都市計画道路京都光悦線(内林町-瓜生野)通り初め式 農業用道路園部八木線第4工区(小山西町-口人)開通祝賀式		台風23号による集中豪雨、連続降雨量241ミリ
2005年 (H17)			新園部町発足50周年記念式典を中央公民館で挙行 第1回天若湖アートプロジェクト(あかりがつなぐ記憶)開催	京北町が京都市に編入合併(4月1日)
2006年 (H18)			第1回南丹ビートフェスティバル開催	園部町、八木町、日吉町、美山町が合併し、南丹市発足(1月1日) 梅雨の長雨で、各地に被害
2007年 (H19)	日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)承認	南丹市新バス路線(園部八木線)運行開始	日吉町中世木公民館竣工式	南丹市総合振興計画「基本構想」を策定
			五ヶ荘小学校開校記念式典	京都市と南丹市が整備した京都新光悦村で進出第1号の工場が完成
			殿田小学校統合式	
2008年 (H20)				南丹市の花(さくら)・木(ふな)・鳥(オオルリ)を制定 南丹市ケーブルテレビサービス全市域に拡大
2009年 (H21)		八木駅 - 園部駅間が複線化	第1回南丹サンサン祭開催	スプリングスひよし入場者250万人達成
		農業用道路 紅葉山トンネル貫通式		五ヶ荘小学校跡地にふる里ファーム五ヶ荘オープン
2010年 (H22)		JR山陰本線複線化開業記念イベント	第17回地域に開かれたダム全国連絡協議会現地交流会開催	「ウッディー京北」が京都市初の「道の駅」登録
		日吉駅、胡麻駅開業100周年絆式典		京都、兵庫、鳥取の3府県でドクターヘリ共同運航開始 安心メール@南丹市運用開始
2011年 (H23)				東日本大震災・福島第一原発事故が発生し、京都にも避難者が相次ぐ 京都府人口が初の減少 「スプリングスひよし」が京都府内15ヶ所目の「道の駅」登録
2012年 (H24)	平成23年度全建賞受賞(水没式複合型曝気装置の開発)	高浜原発に関し、京都府と関西電力が安全協定を締結	日本一周ダムファン写真展開催(ダム愛好家集団の全国キャラバン写真展)	「道の駅スプリングスひよし」全館リニューアル
	災害時等における支援協定を南丹市建設業協会と締結			京都水族館オープン
			第1回京都丹波トリアスロン大会 in 南丹の開催	

表 7.3-1(4) 日吉ダム事業と地域社会情勢の変遷 (2013年-2020年)

西暦	日吉ダム事業	インフラ整備事業	住民活動・交流活動	その他
2013年 (H25)	台風18号出水により日吉ダム管理開始以来最大のダム流入量を記録、洪水時最高水位を超える貯留により、下流被害を軽減	京都縦貫自動車道の沓掛IC~大山崎JCT・ICが開通(府南部や名神高速と京都縦貫自動車道が直結)	写真展「台風18号 写真で見えるダム之力」開催(地元写真愛好家より提供)	台風18号により運用開始後初となる大雨特別警報発表、各地で記録的な豪雨。桂川や由良川などが氾濫、府内全域で交通がまひし、市民生活は大混乱 ダムファンにより開催された「ダムアワード 2013」で、日吉ダムが洪水調節賞とダム大賞を授賞
2014年 (H26)	防災資料館に係る災害時等における一時避難所の指定に関する協定を南丹市と締結	京都縦貫自動車道の丹波IC~京丹波わちICが開通(府の南北を結ぶ縦貫道が着工から34年を経て全線開通)	亀岡市防災講演会で日吉ダムの洪水対応について講演	米国の大手旅行雑誌の読者投票による世界人気都市ランキングで、京都市が国内の都市として初めて1位に選出
	平成25年台風18号出水における日吉ダム操作について、土木学会技術賞及びダム工学会技術賞を授賞		地域(世木地区)報告会「台風18号における対応と地域活性化」開催 日吉ダムで日吉町観光協会主催の婚活イベントを開催 京都水族館のワークショップに日吉ダムの流木を提供	
2015年 (H27)	報道機関を対象とした日吉ダム洪水対応説明会を開催	高浜原発に関し、京都府と関西電力が安全協定を締結	「南丹市世木の里盛り上げ隊」結成、地域活性化の取り組みを実施	米国の大手旅行雑誌の読者投票による世界人気都市ランキングで、京都市が2年連続で1位
		第1回京都丹波トライアスロン大会 in 南丹の開催		
2016年 (H28)	「全日本中学生水の作文コンクール」で「水資源機構理事長賞」受賞の中学生が「一日管理所長」を体験	山陰近畿自動車道野田川大宮道路開通	皇太子殿下ご臨席の下、ダム湖隣接の「府民の森ひよし」にて「第40回全国育樹祭」開催(行事前後に皇太子殿下が日吉ダム管理所に立ち寄られた)	3月25日、天若湖(日吉ダム貯水池)を含む京都府南丹市の地域が、「京都丹波高原国立公園」に指定
2017年 (H29)		新名神高速道路(城陽JCT・IC間~八幡京田辺JCT・IC)開通	南丹市美山中学校にて南丹市総合防災訓練が実施され、日吉ダムは関係機関としてダムの啓発活動等を実施	
2018年 (H30)	7月西日本に停滞した梅雨前線により、管理開始以降最大の流域平均雨量を記録。異常洪水防災操作を実施し、ピーク流量の発生時刻を16時間遅らせて、下流の避難時間を確保するなど、下流の被害軽減に貢献			京都府開庁150年
2019年(H31) (R1)	天皇陛下御在位三十年記念ダムカードの発行		園部藩立藩400年事業(南丹市)	5月に「平成」から新元号「令和」に改元
2020年 (R2)	新型コロナウィルス対策として、インフォギャラリーと防災資料館の休館、ダムカード配布の休止等の実施		新型コロナウィルス感染症の拡大により、住民活動・交流活動はほとんどが中止となる。	新型コロナウィルス感染症がまん延し、感染拡大防止のため、国の緊急事態宣言や行動自粛などが徹底された。
	「全日本中学生水の作文コンクール」で「内閣総理大臣賞」受賞の中学生が「一日管理所長」を体験			

7.4 ダムと地域の関わりに関する評価

7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

(1) 地域に開かれたダム（平成7年2月）の概要

1) 基本理念とコンセプト

日吉ダム周辺環境整備によって“「新しい里」を作り出す”ことを基本的な考え方として、周辺地域の活性化を目標とした「地域に開かれたダム」の基本理念及び整備計画のコンセプトを次のように設定している。

基本理念

「新しい里づくり」
～風土・自然を基盤とした健康で文化的なまちづくり～

コンセプト

○新しい景観・親自然環境の創出

美しさのみならず、新たな景観と訪れる都市の人々が、身近な自然の素顔に接することのできる環境を、地域の風土、自然の中に創出・提供する。

○ウェルネスライフの場の創出

美しい豊かな自然の中で、心身の健康と意義あるライフスタイルと豊かなコミュニケーションネットワークをつくり育てる場とする。

○新しい地域文化の創出

「人と自然」「人と人」が交流し、学び、知ることで、今まで培われてきた地域の歴史、文化の上に新しい歴史、文化の流れを築き、地域への愛着を深め、地域社会、地域文化、地域のアイデンティティーづくりの発展に寄与する。

2) 地域における位置づけ

日吉ダム周辺環境整備事業は、地域活性化の核としての整備が期待され、地域住民に開かれた形で、ダム湖に接する豊かな山林・原野を活用した、自然緑地・水辺の保全と自然にふれあえる場の創出、水と緑のネットワークづくりに加え、ダム湖周辺のレクリエーション機能の整備・活用を図り、産業の振興、雇用の促進、スポーツ・レクリエーション活動及びさまざまな交流を促進することによって、地域の活性化を期待したものである。

また、流域の旧市町村では「地域に開かれたダム」の位置づけを次のようにまとめている。

○旧日吉町

旧日吉町活性化の中心核として豊かな自然を背景に健康で文化的な新しい、魅力的な空間づくりを行い、地域の活性化、若年層の定住化等を推進する。

○旧京北町

旧京北町の重要施策である「溪流の里・清流の里」構想の中心拠点整備を行い、旧京北町西部地域の活性化を促進する。

○旧八木町

旧八木町の重要施策である「大都市近郊型の田園レクリエーションゾーン創出構想」の森林ゾーンの拠点整備の一環として整備を行い、地域の活性化を促進する。

また、平成10年には、日吉ダムが「地域に開かれたダム」に指定されたことを記念し、「ふるさと切手」も発行された。(図 7.4.1-1 参照)



図 7.4.1-1 ふるさと切手

(2) 南丹市におけるダムの位置づけ

1) 都市計画マスタープランにおける日吉ダムの位置づけ

平成18年1月1日に、日吉ダムが立地する旧日吉町、及び周辺の旧八木町、旧美山町、旧園部町の4町が合併し「南丹市」が誕生した。

南丹市の「新市まちづくりの基本方針」の中で示された、「土地利用方針」では、日吉ダムを含む周辺の地域を「観光・レクリエーションゾーン」に設定し、観光産業の振興に向けた取り組みを地域として行っていくこととされた。

その後、平成23年に、今後の南丹市におけるまちづくりの基本的な方針となる「南丹市都市計画マスタープラン」が策定され、全体構想における地域の位置づけとして、日吉ダム周辺は、桂川の総合的な治水・利水機能、水源涵養や生態系の保全などの緑としての機能を保全するとともに、四季を通じて楽しめる観光・レクリエーション活動の場としての活用を図ることとされた。また、日吉地域のまちづくり構想として、府民の森ひよしや日吉ダム、スプリングスひよしをはじめとする観光レクリエーション資源や、緑豊かな山々に育まれた田園環境、全国的にも貴重な平地分水界に位置する立地特性を活かすため、緑や環境などに関する体験や講習会、健康づくりに関するイベントの開催などを通じて、多様な交流を育むまちづくりを進めることとしている。

このように、地域にとって、日吉ダムは観光・レクリエーション活動などの場としての役割を担っている。

南丹市都市計画マスタープランにおける日吉地域のまちづくり構想図を図7.4.1-2に示す。

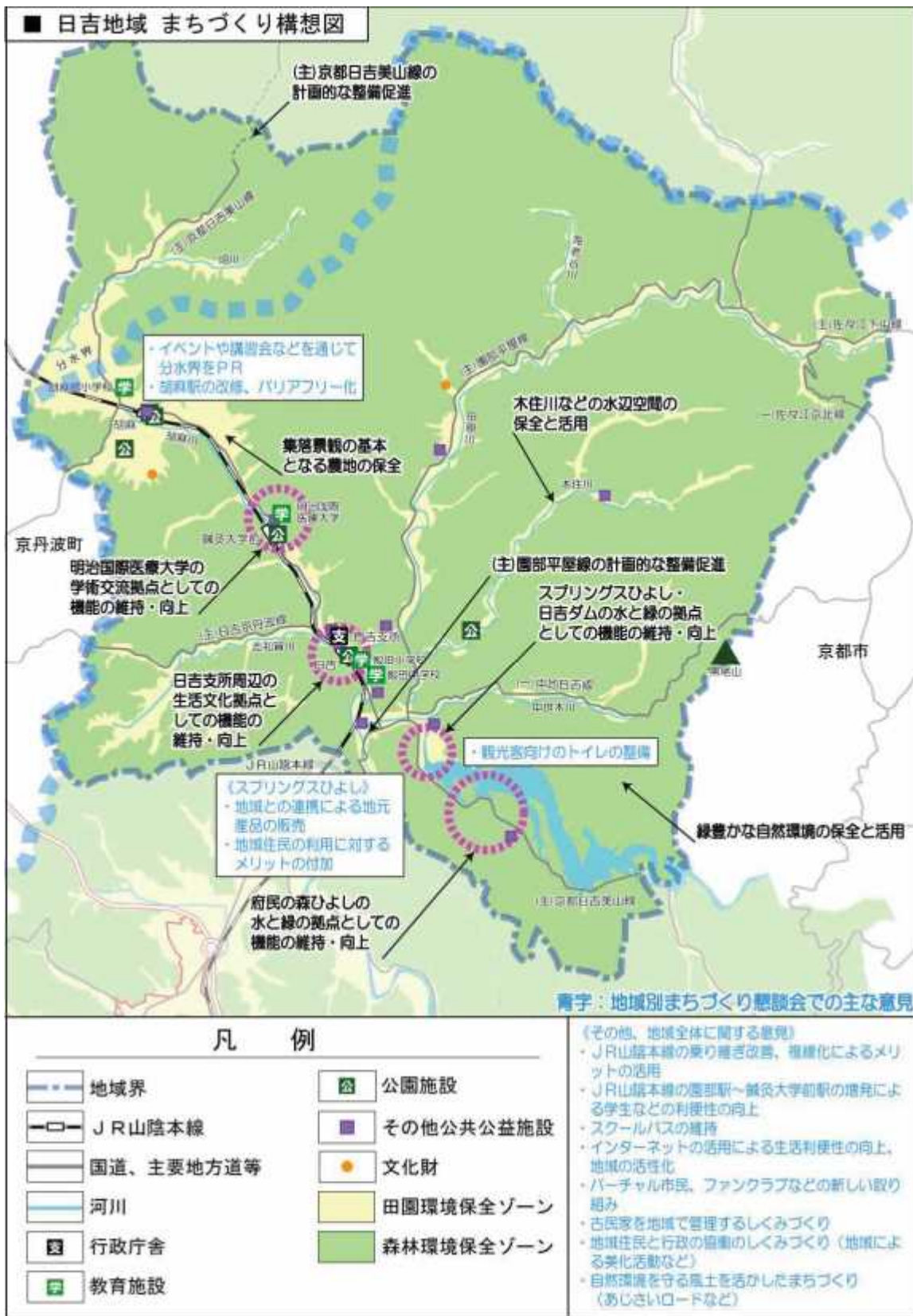


図 7.4.1-2 日吉地域 まちづくり構想図

(出典：南丹市都市計画マスタープラン)

2) 第2次南丹市総合振興計画における日吉ダムの位置づけ

2008年(平成20年)に策定した「南丹市総合計画」(第1次)計画では、『森・里・街がきらめく ふるさと 南丹市』を将来像としたまちづくりを進めてきた。

社会情勢の変化が激しくなる中、「南丹市総合計画」に加え、2014年(平成26年)に「南丹市定住促進アクションプラン」、2015年(平成27年)に「南丹市人口ビジョン」、「南丹市地域創生戦略」などが策定され定住促進の取り組みも行われている。このような取り組みを包括し、南丹市の魅力や特徴を十分に発揮しつつ、社会情勢の変化などによるさまざまな課題に対応し、将来に渡って持続可能なまちづくりを進めるため、2018年～2027年のまちづくりの方針となる「第2次南丹市総合振興計画」を策定した。

「第2次南丹市総合振興計画」の中で、「まちの魅力」として、「日吉ダム」や周辺の「スプリングスひよし」を挙げており、「南丹市の交流人口を増加させるための重要な役割」として期待されている。

(5) まちの魅力

① 個性あふれ魅力的な4町

南丹市は、合併前から4町がそれぞれ個性的で魅力あふれるまちづくりを進めてきました。特に、多くの観光客を惹きつける観光資源は豊富で、スプリングスひよしや府民の森ひよしなどの日吉ダム周辺施設、日本の原風景の残るかやぶき民家群、るり溪高原、清源寺の十六羅漢像などについては、南丹市の交流人口を増加させるための重要な役割を果たしています。

各4町の特徴

町名	人口	観光資源	特徴
園部	16,766人	るり溪、生身天満宮など	市役所本庁がある市の中心地域。大学や専修学校など教育機関も多数あり、若い世代の人口も多い。自然公園や歴史資源が多数ある。
八木	7,615人	清源寺、京都帝釈天など	神社仏閣が多く残る地域。JR山陰本線や京都縦貫自動車道が通っており、交通の便が良い。
日吉	4,940人	<u>日吉ダム、スプリングスひよしなど</u>	「京都のへそ」と呼ばれる地域。スプリングスひよしには、体育館、プール、温泉などの余暇施設が充実している。
美山	3,824人	かやぶきの里、大野ダム公園など	豊かな自然があり、伝統的なかやぶき民家が残る地域。古き良き原風景を生かした観光産業に注力している。

◆人口は2015(平成27)年国勢調査結果



スプリングスひよし



かやぶきの里

図 7.4.1-3 まちの魅力としての日吉ダム

(出典：第2次南丹市総合振興計画(p14))

また、同計画によるゾーン形成では、日吉ダム周辺は「やすらぎの田園ゾーン」と位置づけられ、日吉ダム周辺のレクリエーション施設などを活かし、更なるスポーツ・健康づくりイベントの推進、学習セミナー活動や文化芸術活動の場づくり、余暇施設の充実などの地域整備を進める地域としている。



図 7.4.1-4 南丹市のゾーニング計画

(出典：第2次南丹市総合振興計画(p41))

7.4.2 地域とダム管理者の関わり

「日吉ダム水源地域ビジョン」は、今後の日吉ダム水源地域の更なる発展・機能維持などを目標として、平成14年3月に策定された。

日吉ダム水源地域ビジョンの策定に際しては、京都大学防災研究所池淵周一教授を委員長に、水源地域の自治体、住民代表、関係諸団体、ダム管理者からなる「日吉ダム水源地域ビジョン協議会」を設立し、同協議会で検討、調整の上とりまとめた。

1) 日吉ダム水源地域ビジョンの概要

日吉ダムの水源地域ビジョンの施策とイメージを図7.4.2-1に、水源地域ビジョンの概要を表7.4.2-1に示す。



図 7.4.2-1 日吉ダムの水源地域ビジョンの施策とイメージ

表 7.4.2-1 日吉ダム水源地域ビジョンの概要
地域に開かれた日吉ダムの新たな展開

実施スケジュール	テーマ	実 施 の 手 法			実施主体
		施設	利用・活用	メニュー	
短期	現状施設の展開	スプリングスひよし	文化交流、健康づくり	アーティスト・工芸家の個展、作品展、スポーツ教室、フィットネス	旧日吉町
		スプリングスパーク	文化交流、健康づくり	アーティスト・工芸家の個展、作品展、スポーツ教室、フィットネス	旧日吉町
		インフォギャラリー	文化交流	アーティスト・工芸家の個展、作品展	水資源機構
		日吉ダム防災資料館 (ビジターセンター)	環境学習機能 インフォメーション機能 休憩機能		水資源機構
		日吉ダム湖	湖面利用の促進	カヌー・魚釣り	旧日吉町 旧京北町 旧八木町
		梅ノ木谷公園 ～世木ダム湖周辺	湖面利用の促進	カヌー・魚釣り	大堰川漁業協同組合 上桂川漁業協同組合 水資源機構
		宇津峡公園	地元交流	食材販売	旧京北町
		府民の森ひよし	利用活用メニューの拡大	府民参加の森づくり 森林ボランティアの養成 一般府民の利用 森づくりへの誘導 地元との交流	日吉町森林組合 旧日吉町
		郷土資料館	移築民家の活用		旧日吉町
		サイクリングセンター	特化型の利用		旧日吉町
中期	環境学習をテーマとした展開	原石山跡地	自然観察のフィールド	自然復元によるビオトープ	水資源機構
		小倉谷休憩所	水辺の観察 湖面利用の基地		水資源機構
		梅ノ木谷公園～宇津峡公園	水辺の学習フィールド 環境学習の拠点		日吉ダム湖に同じ
		府民の森ひよし	環境学習の運営拠点 森の学習フィールド	プログラムリーダーの養成 情報発信の場	日吉町森林組合 旧日吉町
		郷土資料館	ダム周辺地域の歴史・文化の学習 地域の暮らし・生活文化の学習		旧日吉町
		日吉町「生涯学習センター」	プログラムリーダーの養成 環境セミナーの開催		旧日吉町
		日吉町「体験の森」	森の環境学習		旧日吉町
		農地	環境保全型農業		日吉町森林組合
		森林	森林ボランティアによる森づくり		日吉町森林組合
		長期	周辺施設・地域への広がり	環境学習による地域交流	農業体験・農村生活プログラム 地域の環境学習
市民参加型の森づくり	森林ボランティアの活動 森林支援・里山の保全、管理・自然教育、学習			日吉町森林組合	
施設利用者と地元の交流	イベント・祭り・文化交流				旧日吉町
周辺施設とのネットワーク	鍼灸大学・病院+スプリングスひよし			→健康づくり	旧日吉町
	生涯学習センター+スプリングスひよし			→文化活動	旧日吉町
	インフォギャラリー		水資源機構		
	体験の森+府民の森ひよし	→森林ボランティア 環境学習	日吉町森林組合		

2) 水源地域ビジョンの活動経緯

策定された「日吉ダム水源地域ビジョン」の実施体制として、平成14年度に地域住民や関係機関から成る「日吉ダム水源地域ビジョン連絡会」(以下「連絡会」という。)を組織し、地域住民の主体的な取組みを支援するとともに、連絡会の継続的な開催により、関係者相互の連絡と調整を図りつつ、必要な見直しを行いながら、より良いビジョンを目指して活動を行っている。

平成16年9月に「環境分科会」を設置し、「日吉ダム環境管理・学習基本計画(案)」の検討などを行っており、平成17年4月には環境分科会の「専門部会」として「日吉ダム冷濁水対策検討会(以下、「検討会」という。)を設立している。

検討会については、下流河川の状況及び既往調査結果により望ましい水質のあり方について議論した上で、冷濁水発生メカニズムの推定や対応策について、学識経験者、自治体、漁業関係者を交えて議論してきた。平成19年3月に「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」を策定し、以降、運用及び対策効果の検証を行っている。

水源地域ビジョン策定の流れ、その後の連絡会の活動経緯を表7.4.2-2に示す。

表 7.4.2-2(1) 水源地域ビジョン連絡会等の経緯

開催年月日	討 議 内 容 等	備 考
ビジョン協議会		
第1回(協議会) H13.10.15	・条件整理 ・水源地域ビジョン策定にあたっての基本方針の提示	
第2回(幹事会) H13.12.18	・現況施設への取り組みの確認 施設整備・利用活動・管理運営に関して ・水源地域ビジョン策定に向けての検討	
第3回(幹事会) H14.2.8	・水源地域ビジョン(案)の提示 ビジョン策定の基本方針 水源地域ビジョン(案)の提示	
第4回(協議会) H14.3.4	・水源地域ビジョン(最終案)の提示 水源地域ビジョン(案)のまとめ	日吉ダム水源地域ビジョンとその具体化に向けて連絡会設立が承認される
ビジョン記者発表	H14.4.10	
ビジョン連絡会		
第1回 H14.5.22	・連絡会会則(案)の提案 ・メンバー追加について	
第2回 H14.8.8	・連絡会会則(案)の提案 ・第3回世界水フォーラムにおいて ・同上・プレイベント「水フェスティバル in 日吉(10月20日開催)」について	
第3回 H14.11.14	・桂川における上下流交流事業の実施状況について ・第3回世界水フォーラムの展示について ・水源地域ビジョンの実施に向けて	京都府
第4回 H14.12.12	・第3回世界水フォーラムの展示について	
第5回 H15.1.29	・第3回世界水フォーラムの展示について ・ビジョン連絡会の今後の活動について	京都府
第6回 H15.3.25	・第3回世界水フォーラムの展示について(報告) ・ビジョン連絡会検討部会への依頼について	京都府
第7回 H15.5.26	・人事異動に伴うメンバーの変更について ・湖面利用分科会会則(案)の提案 ・湖面利用分科会のメンバーについて	
第8回 H15.7.22	・湖面利用分科会会則(案)の提案 ・湖面利用分科会のメンバーについて	
第9回 H16.4.14	・日吉ダム湖面利用計画(案)について	正にすることの承認を得た(第5回湖面利用分科会後開催)
第10回 H16.7.7	・環境分科会会則(案)について ・環境分科会メンバー(案)について ・湖面利用計画の進捗確認及び清掃	正にすることの承認を得た 正にすることの承認を得た 確認及び清掃を行った
第11回 H16.9.13	・ビジョン連絡会・湖面利用の進捗確認意見 ・連絡会メンバーの変更について ・環境分科会メンバーの変更について	
第12回 H17.3.2	・日吉ダム環境管理・学習計画(案)について ・日吉ダム水質対策についての専門部会設置とメンバーについて ・その後の湖面利用状況及び桂川流域ネットワーク活動報告	
第13回 H17.5.30	・環境部会・専門部会実施内容 (第1回日吉ダム冷濁水対策検討会:H17.4.18)の報告 ・原石山跡地の植樹について ・天若湖アートプロジェクトの今後の予定について	
第14回 H19.3.14	・日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)について ・ダム等管理フォローアップの報告 ・その他	
第15回 H20.6.11	・日吉ダム水源地域ビジョン連絡会の経緯について ・ビジョンの今後の進め方(案)について ・平成19年度実施状況・平成20年度計画について ・会則変更について ・その他	
第16回 H21.6.18	・平成20年度実施状況・平成21年度実施計画について ・平成20年度統一清掃実施状況報告 ・現状課題と今後の対応について ・H21日吉ダムフラッシュ放流試験について【速報】 ・日吉ダム防災資料館(ビジターセンター)一時避難所運営計画について ・平成21年度「森と湖に親しむ循環」現地行事支援事業について ・河川敷における利用のあり方について	
第17回 H22.6.25	・平成21年度実施状況・平成22年度実施計画について ・平成21年度統一清掃実施状況報告 ・平成21年度ダム湖利用実態調査アンケート結果について ・国土交通省土地・水資源局水資源部「水の里だより」について ・日吉ダム防災資料館(ビジターセンター)の有効利用について	

表 7.4.2-2(2) 水源地域ビジョン連絡会等の経緯

開催年月日	討議内容等	備考
ビジョン連絡会		
第18回 H23.6.24	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度実施状況・平成23年度実施計画について ・平成22年度統一清掃実施状況報告 ・ウェイクボードの使用承認について ・釣りを目的とする土地使用承認の手続きの変更について ・インフォギャラリー、ビジターセンターの営業日の変更について ・地域情報発信について ・その他 	
第19回 H24.7.13	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度実施状況、平成24年度実施計画について ・平成23年度統一清掃実施状況報告 ・貯水池周辺の不法投棄処理について ・原石山跡地整備状況について ・流木配布について ・「平成23年度 近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会」の報告 ・「日吉ダム冷濁水対策検討会」開催報告 ・その他 	
第20回 H25.6.28	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度実施状況、平成25年度実施計画について ・平成24年度統一清掃実施状況報告 ・河川水辺の国勢調査(魚類)結果報告 ・水源地域実態調査業務(国土交通省)について ・淀川水系におけるダム湖利用実態調査について ・意見交換・その他 	
第21回 H26.7.4	<ul style="list-style-type: none"> ・日吉ダム水源地域ビジョンの概要と現状について ・平成25年度実施状況 ・平成26年度実施予定 ・連絡調整事項・その他 	
第22回 H27.8.24	<ul style="list-style-type: none"> ・日吉ダム水源地域ビジョンの概要と現状について ・平成26年度実施状況 ・平成27年度実施予定 ・その他 	
第23回 H29.2.10	<ul style="list-style-type: none"> ・日吉ダム水源地域ビジョンの概要と現状について ・平成27年度実施状況 ・平成28年度実施予定 ・その他 	
第24回 H29.7.3	<ul style="list-style-type: none"> ・日吉ダム水源地域ビジョンの概要と現状について ・平成28年度実施状況 ・平成29年度実施予定 ・その他 	
第25回 H30.7.2	<ul style="list-style-type: none"> ・日吉ダム水源地域ビジョンの概要と現状について ・平成29年度実施状況 ・日吉ダム湖面利用計画の変更 ・日吉ダム管理開始20周年について ・平成30年度実施予定 ・その他 	
第26回 R1.7.8	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度実施状況 ・令和元年度実施予定 ・その他 	
第27回 R2.12.14	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度実施状況・予定 ・ダム下流広場の運用について ・その他 	

表 7.4.2-2(3) 水源地域ビジョン連絡会等の経緯

開催年月日	討 議 内 容 等	備 考
湖面利用分科会		
第1回 H15.11.12	・ビジョン連絡会の経緯 ・湖面利用について	
第2回 H16.1.29	・一般利用者の湖面利用ルールについて ・日吉ダム湖面利用計画(案)について ・湖面利用分科会のメンバーについてスケジュール ・今後のスケジュールについて ・環境にやさしい湖面利用と地域づくりを目指して	京都大学 木山先生
第3回 H16.2.23	・日吉ダム湖面利用計画(案)について	
第4回 H16.3.24	・日吉ダム湖面利用計画(案)について	
第5回 H16.4.14	・日吉ダム湖面利用計画(案)について	連絡会へ上げる了解を得た
環境分科会		
第1回 H16.9.13	・日吉ダム環境管理・学習基本計画(案)について	
第2回 H17.4.18	・日吉ダム冷濁水対策検討会(環境分科会の専門部会として)の設立について	同検討会は平成18年2月までに4回実施
第3回 H17.5.30	・環境部会・専門部会実施内容 (第1回日吉ダム冷濁水対策検討会:H17.4.18)の報告 ・原石山跡地の植樹について ・天若湖アートプロジェクトの今後の予定について	
第4回 H19.3.14	・日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)について ・ダム等管理フォローアップの報告 ・その他	
冷濁水対策検討会 (環境分科会専門委員会)		
第1回 H16.9.13	・研究会の発足にあたって(設立趣意、規約について) ・日吉ダムの諸元と冷濁水の実態について ・今後の検討内容とスケジュールについて	規約承認
第2回 H17.8.8	・冷水放流及び長期濁水放流発生の上流の状況 ・望ましい水温及びにごりのレベルについて(その1)設立について	
第3回 H17.11.28	・望ましい水温及び濁りのレベルについて(その2) ・水温及び濁水調査結果とその考察について ・水温及び濁水放流対策(案)について	
第4回 H18.2.1	・冷濁水放流対策案の抽出 ・平成18年度検討内容(案) ・平成18年度現地調査計画(案)	
第5回 H18.9.6	・平成17年度日吉ダム冷濁水対策検討会の概要 ・出水時の冷水放流問題と対策について ・貯水池水位低下時の冷水放流問題と対策について ・循環期の長期濁水放流問題と対策について	
第6回 H18.12.13	・出水時の冷水放流対策マニュアルの方針(案)について ・貯水池水位低下時の冷水放流マニュアルの方針(案)について ・循環期の長期濁水放流対策マニュアルの方針(案)について ・第77回検討会の議題について ・連絡事項ほか	
第7回 H19.2.28	・日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)について ・モニタリング計画(案)について ・平成19年度以降の取り組みについて ・連絡事項ほか	対策マニュアル案が承認された。
第8回 H20.3.12	・平成19年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」の改定について ・連絡事項ほか	
第9回 H21.3.9	・平成20年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・貯水池水温と放流水温との関係(H20調査報告) ・今後の検討予定について ・連絡事項ほか	
第10回 H22.3.4	・平成21年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・深層曝気装置の改良について(試験報告) ・今後の検討予定について ・連絡事項ほか	

表 7.4.2-2(4) 水源地域ビジョン連絡会等の経緯

開催年月日	討 議 内 容 等	備 考
第 11 回 H23.3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・今後の予定について ・連絡事項ほか 	
第 12 回 H24.3.12	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・日吉ダム冷濁水対策マニュアルの改定(案)について ・長期濁水放流に対するハード対策の概略検討結果 ・世木ダム濁度について ・今後の予定について ・連絡事項ほか 	
第 13 回 H25.3.26	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年の日吉ダム冷濁水対策マニュアル運用報告 ・水没式複合型曝気装置の実証実験報告 ・河川水辺の国勢調査(魚類)結果報告 ・連絡事項ほか 	
第 14 回 H26.3.14	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年の日吉ダム冷濁水対策マニュアル運用報告 ・下流河川付着藻類調査結果報告 ・台風後の下流河川魚類調査結果報告 ・連絡事項ほか 	
第 15 回 H27.3.20	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年の日吉ダム冷濁水対策マニュアルの運用実績 ・ドローダウン計画見直しの運用効果 ・水質シミュレーションモデルによる冷濁水対策運用効果の検証結果 	
第 16 回 H28.5.20	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年の日吉ダム冷濁水対策マニュアルの運用実績 ・マニュアル案の運用効果検証 ・今後の冷濁水対策方針 	

7.5 ダム周辺の状況

7.5.1 ダム周辺整備事業の状況

日吉ダムは平成5年4月に「地域に開かれたダム」として指定され、平成7年2月に3町（旧日吉町、旧京北町、旧八木町）共同で作成した「地域に開かれたダム整備計画書」の認定を受け、この計画に基づき、地域とダムとの一体的整備を目指し、3町が設置した「日吉ダム周辺環境整備協議会」による調和のとれたダム湖周辺の環境整備が進められ、それぞれの立地特性を活かした施設が整備されている。

また、3町の施設以外に、京都府（平成18年4月から第3セクターで運営）の「府民の森ひよし（STIHLの森京都）」、水資源機構の「インフォギャラリー」、日吉ダム防災資料館（ビクターセンター）」なども整備されている。「インフォギャラリー」は日本で初めてダム堤体内に設置されたもので、当時、話題を呼んだ施設である。

これらの施設は一体となってお互いに補完、棲み分けをしながら利用に対応している。

日吉ダムの周辺整備状況を図 7.5.1-1～図 7.5.1-2 に示す。



図 7.5.1-1(1) 日吉ダム周辺整備施設

地域の自然と身近にふれあ
ヘルシーで文化的
日吉ダムも応

い、思いっきり楽しめる！
な新しい里づくり
援しています

楽しさの
入り口！

スプリングパークや日吉ダムがある、いわば日吉ダムの表玄関です。この地域を訪れた人々のスポーツやレクリエーションの出発点になります。

水と緑の
絶景！

ダム湖と、それをとりまくふるさとの緑の眺めを楽しめ、水と緑のコントラストが最高。夏には世木ダムがつくる薄の風景も見どころです。

自然との
ふれあい！

森の散策や観察ができる府民の森や貯水池周辺に設けた休憩所などがあり、釣りやサイクリングが楽しめます。

アウトドアライフ
満喫！

キャンプなどさまざまなアウトドアライフが楽しめる宇津峡公園は、本格的な自然が体験できます。



図 7.5.1-1(2) 日吉ダム周辺整備施設

表 7.5.1-1 各ゾーンの位置付け

ゾーン名	位置付けと内容	
里のゾーン	①日吉ダムのメインエントランス ②都市との交流の場 ③旧日吉町のスポーツ拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・旧日吉町のイメージを伝えるゾーン ・「旧日吉町のよさ」を印象づけ、認識する場。 ・都市との文化交流の場として、都市と文化の共有化を進め、旧日吉町の定住化をはかるとともに、新・旧住民との交流の場とする。 ・町内に不足しているスポーツ施設を整備し町の「スポーツ」機能の拠点とする。
水のゾーン	①展望を楽しむ場 ②水と親しむ場	<ul style="list-style-type: none"> ・道路、展望施設、橋よりダム湖面や、水に映る山並み等の風景を楽しみながら、周遊、散策ができるものとする。 ・日吉ダム湖、世木ダム湖の特性を利用し、湖面スポーツ、水遊び、魚釣り、湿生植物観察、散策等に積極的に活用する。
森のゾーン	①森を知る場 ②森と親しむ場	<ul style="list-style-type: none"> ・森の知識を提供し、森（自然）に対する認識を深める場とする。 ・音楽、工芸、セミナー等の様々な文化活動をアメニティの高い環境（森）の中で行い、心身のリフレッシュを図る場とする。
山のゾーン	①本格的に自然（山・森）と関わる場	<ul style="list-style-type: none"> ・最も自然度の高いゾーンとして本格的に自然と動的に関わりながら、自然そのものを活かし楽しむ場とする。

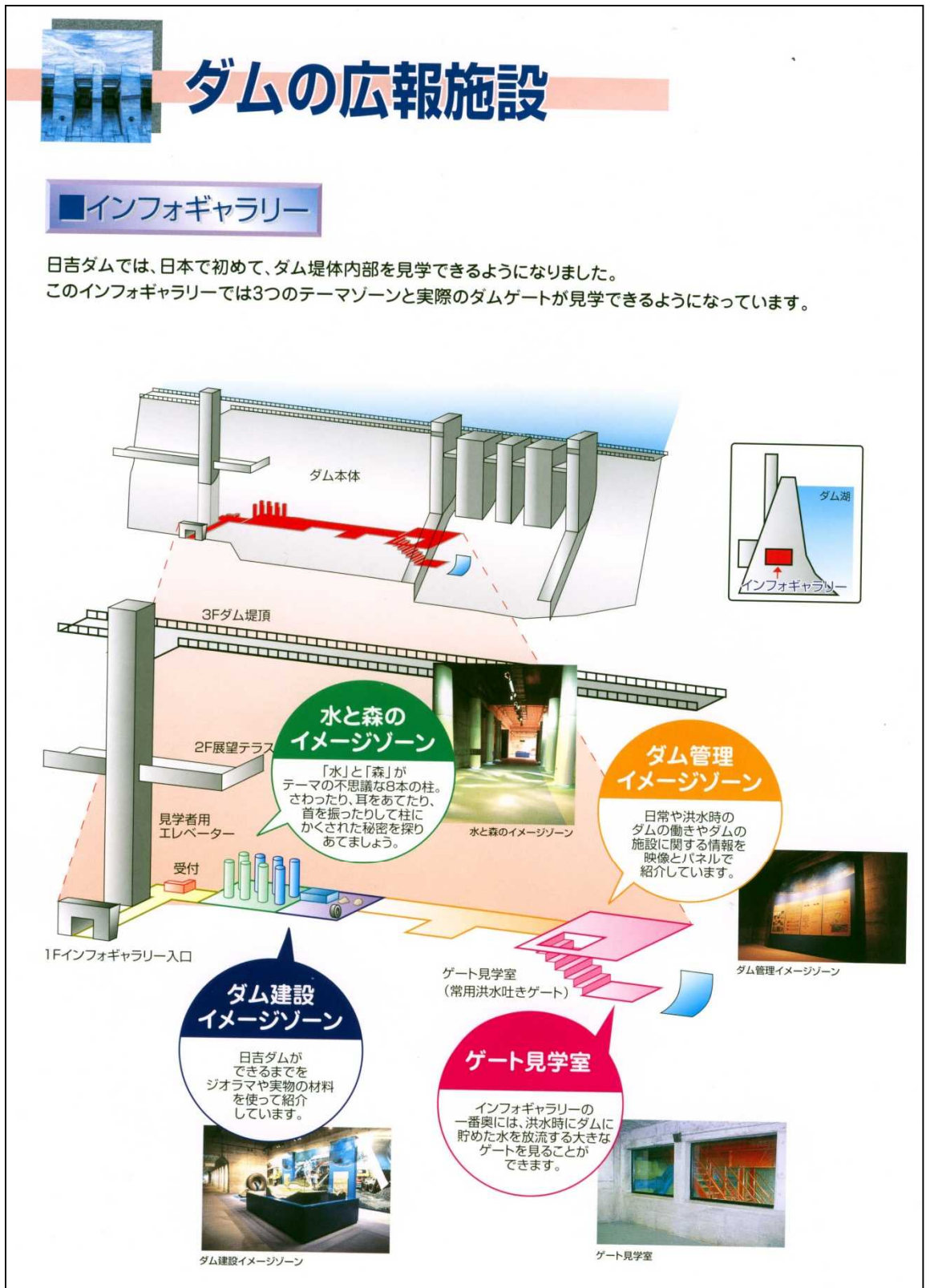


図 7.5.1-2(1) 日吉ダムの広報施設

■ビジターセンター

ビジターセンターでは、水の役割、水の働き、水の恐さなど、水について、また、日吉ダムについて、パネルや映像、模型で説明しています。そのなかには、自分で探さなければ、見つからないものもあり楽しくダムの勉強ができるようになっています。



日吉ダム・ビジターセンター



日吉ダムゾーン



日吉ダムゾーン



水の育威ゾーン



水の育威ゾーン

日吉ダムゾーン

探検！発見！日吉ダム

日吉ダムの機能やその周辺の自然などについて、縮小ジオラマ模型やパソコンで紹介しています。それぞれの機器を操作することによって、日吉ダムや、周辺に生息している動植物などについて理解を深めていただくことができます。

人・水・自然を結ぶ日吉ダム

眼前に広がる日吉ダムの景観を背景に、日吉ダムの役割と、ダム湖である天若湖の自然についてパネルで紹介しています。

ウェルカムゾーン

地球をめぐる桂川の水

淀川から桂川、源流までを、パネルとイメージ映像で表現することによって、それが地球レベルでの水の循環の一部であることを説明します。また、展示ホールの導入部として、水と川への親近感を深めていただきます。



ウェルカムゾーン

メモリアルギャラリー

1Fフロアには、水源3町の日吉ダム建設前の暮らしや昔からの伝統を写真で紹介しています。



メモリアルギャラリー

水の育威ゾーン

洪水体験

洪水の映像とイメージ音響により、水は恩恵だけでなく、生命や財産を脅かす存在であることを体験していただきます。

洪水のメカニズム

保津峡が桂川の洪水に対してどのような影響を及ぼしているか、また、日吉ダムが桂川の洪水に対してどのような効果があるかを模型とナレーションで紹介しています。

インフォメーションカウンター

- フロア構造
- 2F 展示ホール
- 1F メモリアルギャラリー
- 日吉ダムシアター
- トイレ



日吉ダムシアター

水の恩恵ゾーン

生命を育む水

動植物と水のかかわりをパネルなどで紹介します。地球上に生息する生き物はすべて生命維持に水が欠かせないことが理解していただけます。パネルを開くことで内容を読めるようになっています。

暮らしや社会を支える水

私たちの暮らしや身近な社会の中で水がどのように利用されているかをパネルなどで紹介しています。人間は生命維持以外にも水と密接に関わり合っていることが理解していただけます。

川とともに

私たち人間と川との関わり合いについて、また、水運や漁業、レジャーなどについてパネルや映像などで紹介しています。川とのさまざまな関わり合いを通じた水の恩恵について理解していただけます。



水の恩恵ゾーン

水の恩恵ゾーン

図 7.5.1-2(2) 日吉ダムの広報施設

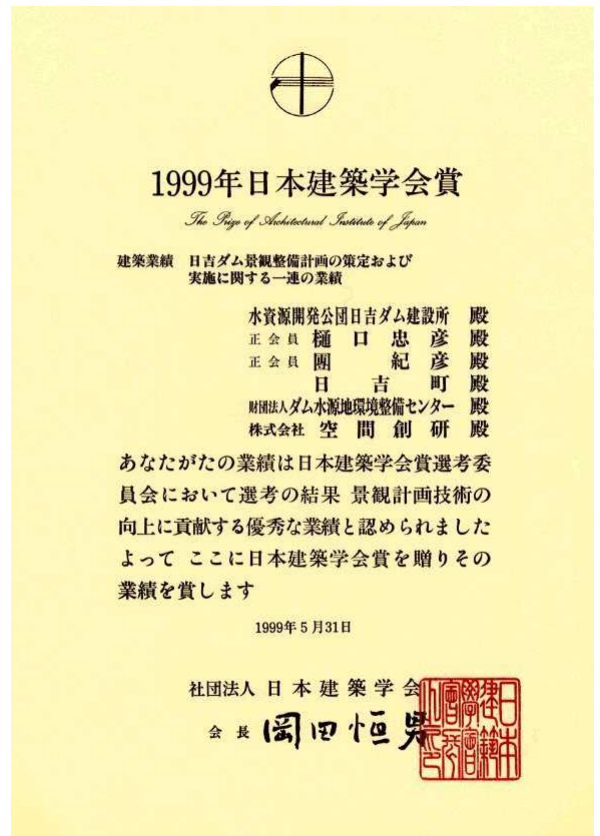
【1999年日本建築学会賞(業績)受賞】

日吉ダムは、「地域に開かれたダム」の指定を受けたことを機に、地形や自然・社会環境を十分に活かしたダム周辺の環境整備計画を策定し、整備を実施している。特に、新潟大学樋口忠彦教授（現：新潟大学名誉教授）の指導のもとに、水資源機構、旧日吉町、(財)ダム水源地環境整備センター（現：(一財)水源地環境センター）、建築家團紀彦氏、(株)空間創研が協力した土木構造物である「日吉ダム」と建築構造物である「スプリングスひよし」を「ダム下流公園」を介して一体的に整備し、優れた景観を創出した業績が評価され、「1999年日本建築学会賞（業績）」を受賞している。

日本建築学会賞は、建築に関する学術・技術・芸能の進歩発展を図るとともに、我が国の建築文化を高め、公共の福祉に寄与することを目的にもうけられたもので、昭和24年以来毎年極めて顕著な業績のあったものが表彰されている。



日吉ダムとスプリングスひよし



1999年日本建築学会賞の表彰状

7.5.2 ダム周辺施設の利用状況

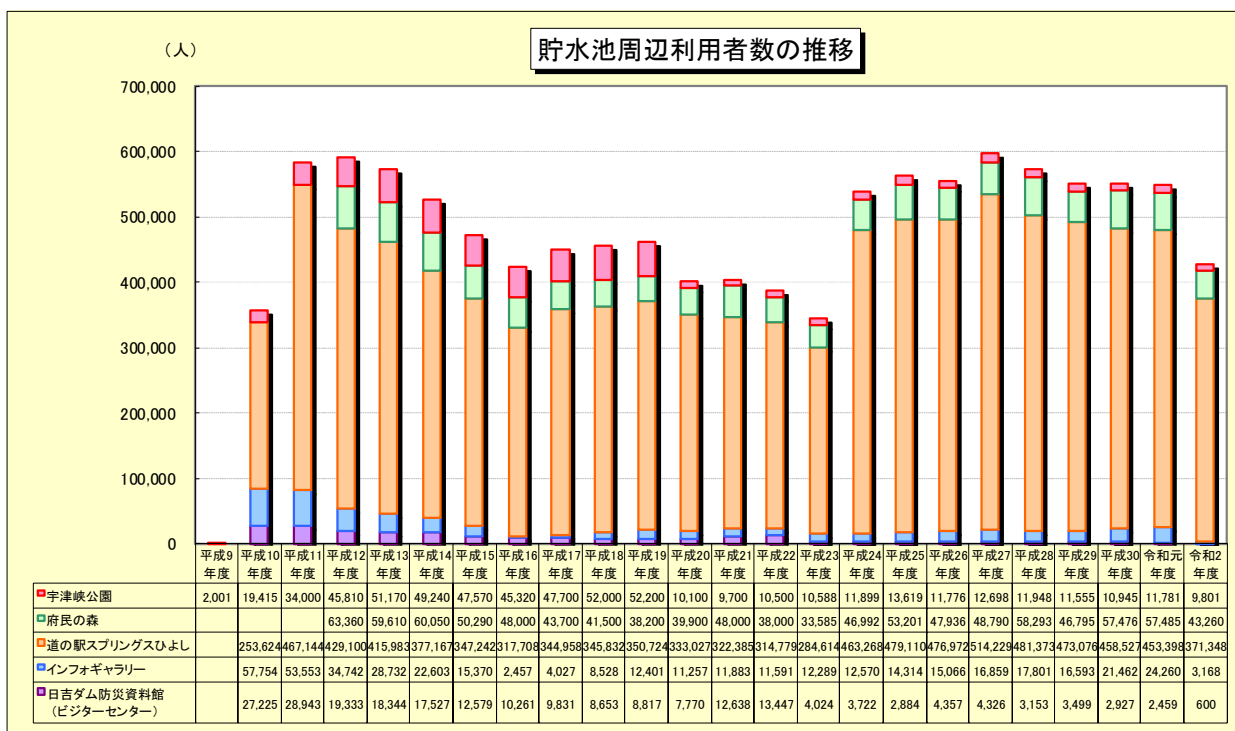
日吉ダム貯水池周辺施設の利用状況として、ダム周辺の3施設「道の駅スプリングスひよし、府民の森ひよし（STIHLの森京都）、宇津峡公園」の利用者数の推移を図7.5.2-1に示す。また、日吉ダムでは、地域住民等のダム施設や管理に関する理解を得るために、随時、ダムの広報施設等を一般に開放しており、ダム堤体内の「インフォギャラリー」及びダム直上流の「日吉ダム防災資料館（ビジターセンター）」の利用者数についても併せて示した。

道の駅スプリングスひよしの利用者数は、他の施設に比べて著しく多くなっており、平成11年度をピークに減少傾向であったが、平成24年3月のリニューアルオープンにより、集客力が向上し、平成27年度にはこれまでに最も多かった平成12年度を上回り最高を記録した。以降、令和元年まで概ね横ばいである。

宇津峡公園、府民の森、インフォギャラリー、日吉ダム防災資料館も、平成24年以降大きな変化もなく令和元年までは概ね横ばいで推移している。

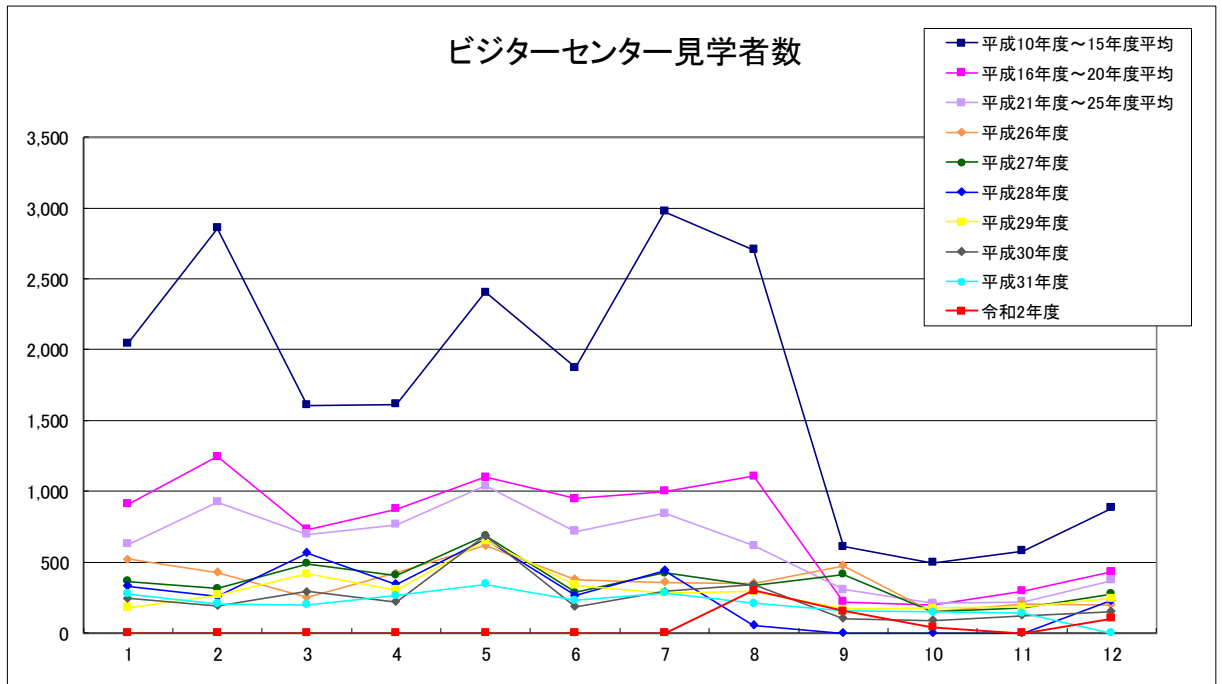
令和2年は、新型コロナウイルス感染拡大により、施設の閉鎖や活動自粛等により利用者の減少が見られる。

各年度の月別施設見学者数及び来館者数の推移を図7.5.2-2に示す。



- * 日吉ダム防災資料館（ビジターセンター）・インフォギャラリー：平成10年4月開園
- * 道の駅スプリングスひよし：平成10年10月1日「スプリングスひよし」オープン、平成23年10月1日道の駅登録
- * 府民の森ひよし：平成12年4月29日開園
- * 宇津峡公園：平成9年6月末開園
- * 宇津峡公園の利用者数のカウント方法は、平成20年度より変更（平成19年度までは目視確認による施設利用者数であり、平成20年度以降は入場チケット購入者数である。）

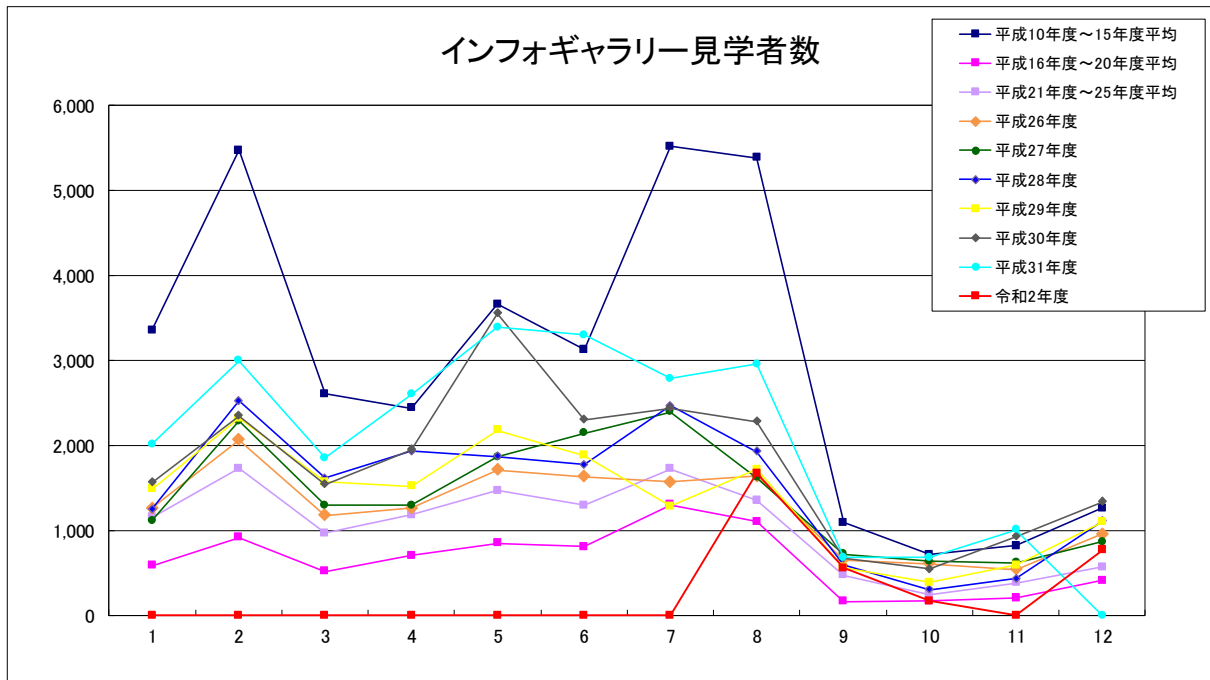
図 7.5.2-1 貯水池周辺施設の利用者数の推移



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
平成10年度～15年度平均	2,047	2,859	1,609	1,614	2,404	1,874	2,976	2,706	611	495	580	885	
平成16年度～20年度平均	909	1,246	730	876	1,101	947	999	1,108	221	201	296	431	
平成21年度～25年度平均	627	924	696	767	1,040	717	846	617	307	212	219	371	
平成26年度	519	426	251	425	619	378	357	350	475	150	208	199	4,357
平成27年度	364	314	491	408	685	286	423	333	413	153	179	277	4,326
平成28年度	331	260	565	343	662	266	441	55	0	0	0	230	3,153
平成29年度	179	270	418	302	651	336	284	293	168	174	181	243	3,499
平成30年度	246	193	293	221	687	187	292	340	103	89	125	151	2,927
平成31年度	276	205	199	265	346	230	282	211	156	148	141	0	2,459
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0	301	156	41	0	102	600

※新型コロナウイルス感染拡大防止のための休館期間 (R2. 2. 28～R2. 10. 31)

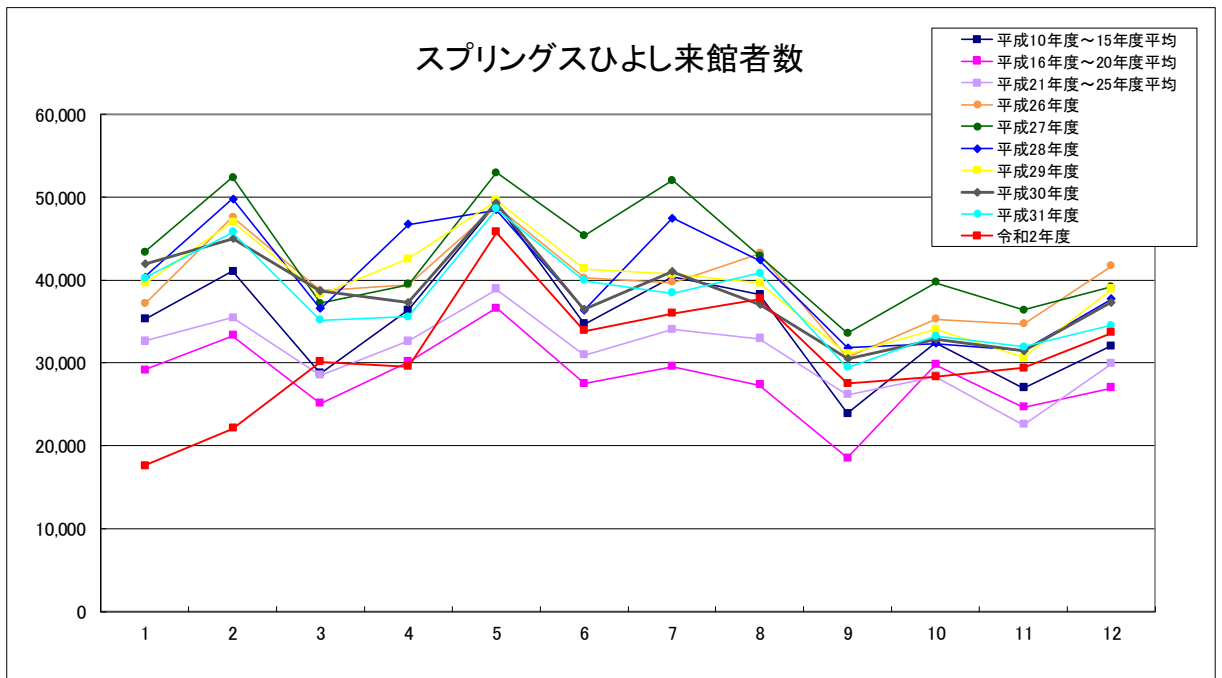
図 7.5.2-2 (1) 施設見学者数の推移 (ビジターセンター)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
平成10年度～15年度平均	3,358	5,475	2,605	2,438	3,666	3,127	5,520	5,387	1,091	714	820	1,260	
平成16年度～20年度平均	587	915	518	705	848	805	1,305	1,101	163	171	207	411	
平成21年度～25年度平均	1,156	1,727	969	1,181	1,466	1,296	1,725	1,353	469	238	379	570	
平成26年度	1,260	2,065	1,178	1,260	1,712	1,632	1,567	1,638	651	608	537	958	15,066
平成27年度	1,115	2,285	1,295	1,294	1,865	2,145	2,397	1,618	723	637	620	865	16,859
平成28年度	1,251	2,524	1,617	1,936	1,870	1,772	2,468	1,928	592	303	433	1,107	17,801
平成29年度	1,483	2,321	1,569	1,519	2,179	1,883	1,285	1,718	562	388	590	1,096	16,593
平成30年度	1,562	2,349	1,540	1,948	3,554	2,305	2,441	2,280	679	543	926	1,335	21,462
平成31年度	2,013	2,995	1,854	2,600	3,389	3,297	2,786	2,957	683	682	1,004	0	24,260
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0	1,672	557	169	0	770	3,168

※新型コロナウイルス感染拡大防止のための休館期間（R2. 2. 28～R2. 10. 31）

図 7.5.2-2 (2) 施設来館者数の推移（インフォギャラリー）



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
平成10年度～15年度平均	35,251	41,028	28,696	36,375	49,260	34,687	40,394	38,204	23,904	32,446	26,952	32,062	
平成16年度～20年度平均	29,120	33,298	25,086	30,137	36,567	27,478	29,523	27,333	18,514	29,755	24,645	26,994	
平成21年度～25年度平均	32,604	35,443	28,499	32,623	38,848	30,929	34,012	32,916	26,143	28,395	22,556	29,863	
平成26年度	37,127	47,531	38,693	39,391	48,873	40,226	39,668	43,189	30,667	35,261	34,663	41,683	476,972
平成27年度	43,339	52,350	37,207	39,481	52,915	45,320	51,995	42,876	33,538	39,697	36,338	39,173	514,229
平成28年度	40,349	49,799	36,511	46,666	48,452	36,390	47,443	42,364	31,784	32,367	31,536	37,712	481,373
平成29年度	39,578	46,976	38,288	42,534	49,587	41,291	40,678	39,609	31,031	34,031	30,622	38,851	473,076
平成30年度	41,982	44,921	38,613	37,260	49,321	36,395	41,001	37,033	30,493	32,834	31,453	37,221	458,527
平成31年度	40,232	45,747	35,110	35,545	48,536	39,905	38,414	40,787	29,443	33,233	31,956	34,490	453,398
令和2年度	17,601	22,062	30,124	29,516	45,724	33,828	35,963	37,724	27,508	28,285	29,388	33,625	371,348

図 7.5.2-2 (3) 施設来館者数の推移 (スプリングスひよし)

7.5.3 ダム及び周辺のイベント等の開催状況

(1) イベント等の開催状況

平成28年～令和2年の主な地元との交流、日吉ダム及び周辺のイベントの開催状況を表7.5.3-1～表7.5.3-4、図7.5.3-1～図7.5.3-4に示す。

ダム周辺のイベントとしては、春に日吉ダムマラソン、夏にひよし夏まつり、天若湖アートプロジェクト、秋にはひよし水の杜フェスタ等が開催されている。また、上下流交流として京都府営水道と連携した施設見学会（水の恵み見学ツアー）を開催しており、下流域の日向市まつりなどのイベントにも参加している。このほか、平成28年には、皇太子殿下ご臨席の下、第40回全国育樹祭式典行事がSTIHLの森 京都（府民の森ひよし）で開催された。

なお、令和2年は新型コロナウイルスが全国で拡大し、「天若湖アートプロジェクト」は実施されたが、それ以外のイベントや交流活動等は、感染防止のため一切行われなかった。

表 7.5.3-1 主な地元との交流及びイベントの開催状況(平成28年)

活動内容 (イベント名)	主催者	実施日	活動内容
清掃活動	日吉ダム	H28.1.26、 11.10, 11.17	水源地域ビジョンにおける美化活動として、貯水池周辺の清掃活動を行った。
第9回桂川クリーン大作戦	桂川流域クリーンネットワーク	H28.2.28	桂川流域クリーンネットワーク主催のもと、地域住民や地元の企業、自治体などが連携した大規模な清掃活動「第9回桂川クリーン大作戦」が桂川流域で行われ、日吉ダムからも参加した。
水の恵み見学ツアー	日吉ダムと京都府営水道事務所	H28.5.21	日吉ダムの水を利用している地域住民（向日市・長岡京市・大山崎町の住民）を対象に、水の大切さや水道用水の知識、ダムの目的・役割を知っていただくために、水源施設である日吉ダムと乙訓浄水場の施設見学会「水の恵み見学ツアー」を開催し、35名が参加した。
天若湖アートプロジェクト あかりがつなぐ記憶	天若湖アートプロジェクト実行委員会	H28.7.2～3	天若湖アートプロジェクト実行委員会主催のもと、ダム建設で水没したかつての集落の夜景（あかり）を湖面に再現し、水源地域住民への感謝と上下流市民交流、地域の活性化を目指したイベント「天若湖アートプロジェクト あかりがつなぐ記憶」が開催され、実行委員会の一員として”あかり”の設営などの協力・協働を行った。
ひよし夏祭り	日吉町観光協会	H28.7.17	日吉ダム下流広場において、日吉町観光協会主催の地域行事「ひよし夏祭り」が開催され、国内初のダム堤体に投影する「プロジェクトマッピング」が花火とのコラボレーションにて行われた。日吉ダムでは船舶による貯水池側からのダム見学ツアー、普段見学できないダム堤体内の探検ツアーを行い、日吉ダムの目的・役割や洪水時の活躍等についてPRした。
第40回全国育樹祭式典行事	STIHLの森 京都（府民の森ひよし）	H28.10.9	第40回全国育樹祭式典行事が、皇太子殿下ご臨席の下、「育樹の輪 ひろげる森と木の文化」をテーマに、全国から約4千人の方が参加され、日吉ダム貯水池に隣接する「STIHLの森 京都（府民の森ひよし）」にて開催された。殿下には、式典へのご臨席の前後に、日吉ダム管理所にお立ち寄りいただき、ダム管理の重要性についてお言葉をいただいた。
職場体験学習	日吉ダム	H28.11.9～11	総合学習の一環として実施された職場体験学習の場として、地元日吉町の中学生を受け入れ、ダム管理の仕事を学習・経験していただいた。
向日市まつり	向日市まつり実行委員会	H28.11.19～20	向日市まつり実行委員会主催の「向日市まつり」に南丹市とともに参加し、パネル展示と流木・刈草を用いて製造した堆肥の配布を行い、日吉ダムの役割や洪水時の活躍等についてPRした。



水の恵み見学ツアー (H28. 5. 21)



天若湖アートプロジェクト (H28. 7. 2~3)



ひよし夏祭り 2016 (H28. 7. 17)



第40回全国育樹祭式典行事 (H28. 10. 9)



職場体験学習 (H28. 11. 9~11)



向日市まつり (H28. 11. 19~20)

図 7.5.3-1 地元との交流及びイベント風景 (平成28年)

表 7.5.3-2 主な地元との交流及びイベントの開催状況(平成29年)

活動内容 (イベント名)	主催者	実施日	活動内容
水の恵み見学ツアー	日吉ダムと京都府営水道事務所	H29.6.10	日吉ダムの水を利用している地域住民(向日市・長岡京市・大山崎町の住民)を対象に、水の大切さや水道用水の知識、ダムの目的・役割を知っていただくために、水源施設である日吉ダムと乙訓浄水場の施設見学会「水の恵み見学ツアー」を開催し、26名が参加した。【共催】
天若湖アートプロジェクト あかりがつなぐ記憶	天若湖アートプロジェクト実行委員会	H29.7.2	天若湖アートプロジェクト実行委員会主催のもと、ダム建設で水没したかつての集落の夜景(あかり)を湖面に再現し、水源地域住民への感謝と上下流市民交流、地域の活性化を目指したイベント「天若湖アートプロジェクト あかりがつなぐ記憶」が開催され、実行委員会の一員として”あかり”の設営などの協力・協働を行った。【協力】
ひよし夏祭り	日吉町観光協会	H29.7.17	日吉ダム下流広場において、日吉町観光協会主催の地域行事「ひよし夏祭り」が開催された。日吉ダムでは、普段見学できないダム堤体内の探検ツアーを行い、日吉ダムの目的・役割や洪水時の活躍等についてPRした。【共催】
職場体験学習	日吉ダム	H29.11.8~10	総合学習の一環として実施された職場体験学習の場として、地元日吉町の中学生を受け入れ、ダム管理の仕事を学習・経験していただいた。【主催】
向日市まつり	向日市まつり実行委員会	H29.11.18~19	向日市まつり実行委員会主催の「向日市まつり」に南丹市とともに参加し、パネル展示と流木・刈草を用いて製造した堆肥の配布を行い、日吉ダムの役割や洪水時の活躍等についてPRした。【参加】
清掃活動	日吉ダム	H29.12.7	水源地域ビジョンにおける美化活動として、貯水池周辺の清掃活動を行った。【主催】



水の恵み見学ツアー (H29. 6. 10)



天若湖アートプロジェクト (H29. 7. 2)



ひよし夏祭り (H29. 7. 17)



職場体験学習 (H29. 11. 8~10)



向日市まつり (H29. 11. 18~19)

図 7.5.3-2 地元との交流及びイベント風景 (平成29年)

表 7.5.3-3 主な地元との交流及びイベントの開催状況(平成30年)

活動内容 (イベント名)	主催者	実施日	活動内容
天若湖アートプロジェクト あかりがつなぐ記憶	天若湖アートプロジェクト実行委員会	H30.6.2	天若湖アートプロジェクト実行委員会主催のもと、ダム建設で水没したかつての集落の夜景(あかり)を湖面に再現し、水源地域住民への感謝と上下流市民交流、地域の活性化を目指したイベント「天若湖アートプロジェクト あかりがつなぐ記憶」が開催され、実行委員会の一員として”あかり”の設営などの協力・協働を行った(協力・協働)。
水の恵み見学ツアー	日吉ダムと京都府営水道事務所	H30.6.9	日吉ダムの水を利用している地域住民(向日市・長岡京市・大山崎町の住民)を対象に、水の大切さや水道用水の知識、ダムの目的・役割を知っていただくために、水源施設である日吉ダムと乙訓浄水場の施設見学会「水の恵み見学ツアー」を開催し、17名が参加した(共催)。
ひよし夏祭り	日吉町観光協会	H30.7.15	日吉ダム下流広場において、日吉町観光協会主催の地域行事「ひよし夏祭り」が開催された。日吉ダムでは、普段見学できないダム堤体内の探検ツアー(69名)を行い、日吉ダムの目的・役割や洪水時の活躍等についてPRした(協賛)。
京都丹波・森の京都ハーベスト・ガラ2018	一般社団法人 森の京都地域振興社(森の京都DMO)、京都丹波体感フェスタ実行委員会、京都府、南丹市商工会青年部	H30.10.13	「京都丹波・森の京都ハーベスト・ガラ2018」は、STIHLの森京都を中心に開催され、「ひよし水の杜フェスタ2018」は、日吉ダム下流広場で開催された。日吉ダムでは両イベントにおいて施設見学会(合計約90名)を実施し、普段見学できない常用洪水吐きゲート室等を案内し、各設備を間近に見ながら参加者に説明を行った(共催)。
ひよし水の杜フェスタ2018	ひよし水の杜フェスタ実行委員会	H30.10.28	
ダム博物館(治水館)オープン	(財)日本ダム協会	H30.10.21	堤体内にあるインフォギャラリー内に(財)日本ダム協会によるダム博物館(治水館)がオープンし、ダムの治水効果に関する展示設備を設置した(協力)。
インフォギャラリーのリニューアルオープン	日吉ダム	H30.10.28	日吉ダム管理開始20年にあたり、インフォギャラリー内に「20年のあゆみ」についてパネル展示し、リニューアルオープンした(主催)。
向日市まつり	向日市まつり実行委員会	H30.11.17 H30.11.18	向日市まつり実行委員会主催の「向日市まつり」に南丹市とともに参加し、パネル展示と流木・刈草を用いて製造した堆肥の配布を行い、日吉ダムの役割や洪水時の活躍等についてPRした(協力)。
清掃活動	日吉ダム	H31.3.19	水源地域ビジョンにおける美化活動として、貯水池周辺の清掃活動を行った。(主催)



かつて家屋が存在した場所に灯された明かり

天若湖アートプロジェクト (H30. 6. 2)



水の恵み見学ツアー (H30. 6. 9)



ひよし夏祭り (H30. 7. 15)



施設見学会 京都丹波・森の京都ハーベスト・ガラ 2018 (H30. 10. 13)



施設見学会 ひよし水の杜フェスタ 2018 (H30. 10. 28)

ダム博物館 (治水館) オープン (H30. 10. 21)

図 7.5.3-3(1) 地元との交流及びイベント風景(平成 30 年)



インフォギャラリーの
リニューアルオープン (H30.10.28)



インフォギャラリーのリニューアルオープンの新聞での紹介



向日市まつり (H30.11.17~18)

図 7.5.3-3(2) 地元との交流及びイベント風景(平成30年)

表 7.5.3-4 主な地元との交流及びイベントの開催状況(令和元年)

活動内容 (イベント名)	主催者	実施日	活動内容
天若湖アートプロジェクト あかりがつなぐ記憶	天若湖アートプロジェクト実行委員会	R1.6.1-2	天若湖アートプロジェクト実行委員会主催のもと、ダム建設で水没したかつての集落の夜景(あかり)を湖面に再現し、水源地域住民への感謝と上下流市民交流、地域の活性化を目指したイベント「天若湖アートプロジェクトあかりがつなぐ記憶」が開催され、実行委員会の一員として”あかり”の設営などの協力・協働を行った(共催)。
土木技術見学(ダム見学)	京都府南丹広域振興局	R1.6.13	農芸高校の生徒が南丹市や亀岡市の農業土木の現場を訪れ、井堰やダム、用水路などを見学し、水利施設の技術や役割を学んだ。日吉ダムでは、ダム見学を行った(協力)。
ひよし夏祭り2019 花火大会	日吉町観光協会	R1.7.14	日吉ダム下流広場において、日吉町観光協会主催の地域行事「ひよし夏祭り」が開催された。日吉ダムでは、普段見学できないダム堤体内の探検ツアー(69名)を行い、日吉ダムの目的・役割や洪水時の活躍等についてPRした(協賛)。
職場体験	日吉ダム	R1.11.6-8	殿田中学校の生徒が職場体験学習に訪れ、機械・電気設備の点検などのダム管理業務を体験した。
ひよし水の杜フェスタ2019	ひよし水の杜フェスタ実行委員会	R1.11.10	「ひよし水の杜フェスタ2019」が日吉ダム下流広場で開催された。日吉ダムでは両イベントにおいて施設見学会(合計約50名)を実施し、普段見学できない常用洪水吐きゲート室等を案内し、各設備を間近に見ながら参加者に説明を行った(共催)。
令和元年度 秋季特別展 森本晴雲	南丹市日吉町郷土資料館	R1.9.21-10.22、 R1.10.25-11.24	日吉出身の書家である森本晴雲の展覧会が日吉町郷土資料館で開かれ、日吉ダム建設で水没した天若地区の風景を題材にした作品を中心とした展示が行われた。



天若湖アートプロジェクト (R1. 6. 1-2)



ひよし夏祭り 2019 花火大会 (R1. 7. 14)



職場体験 (R1. 11. 6-8)



ひよし水の杜フェスタ 2019 (R1. 11. 10)

図 7.5.3-4 地元との交流及びイベント風景 (令和元年)

表 7.5.3-5 主な地元との交流及びイベントの開催状況(令和2年)

活動内容 (イベント名)	主催者	実施日	活動内容
天若湖アートプロジェクト あかりがつなぐ記憶	天若湖アートプロジェクト実行委員会	R2.10.24	天若湖アートプロジェクト実行委員会主催のもと、ダム建設で水没したかつての集落の夜景(あかり)を湖面に再現し、水源地域住民への感謝と上下流市民交流、地域の活性化を目指したイベント「天若湖アートプロジェクトあかりがつなぐ記憶」が開催された。コロナ禍ということもあり、オンラインでも配信された。(共催)。



天若湖アートプロジェクト (R2.10.24)

(2) ダムカードの配布

国土交通省と独立行政法人水資源機構の管理するダムでは、ダムのことをより知ってもらうために平成19年より「ダムカード」を作成し、ダムを訪問した方に配布している。日吉ダムのダムカード配布状況を図7.5.3-5及び図7.5.3-6に示す。

令和元年度は、旅行会社の要望を受けて、ツアーにて日吉ダムを訪れた来訪者に配布を行ったことから、配布枚数が倍増している。

なお、令和2年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ダムカードの配布を一時中止しており、配布枚数が減少している。

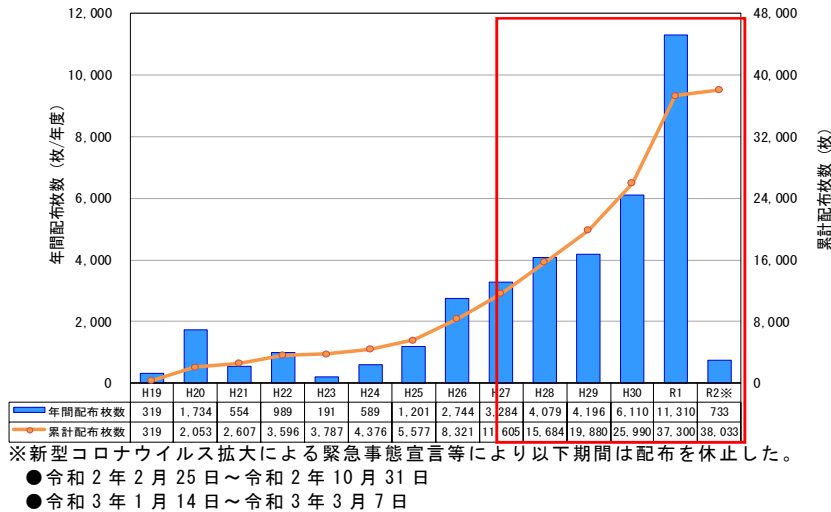


図 7.5.3-5 ダムカード配布状況（平成19年から令和2年度）

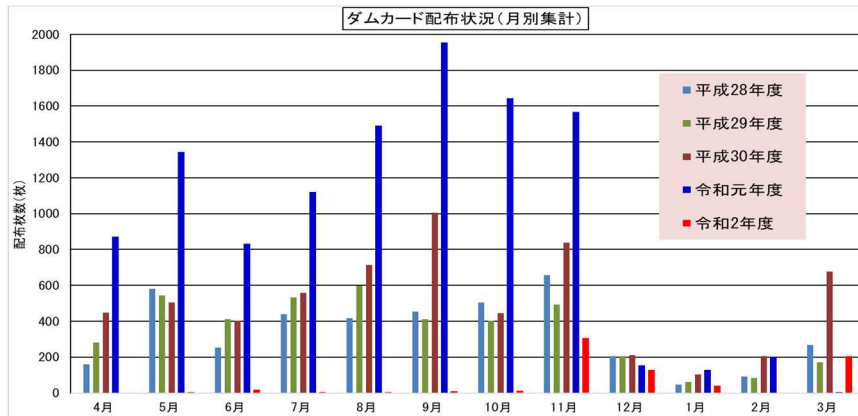


図 7.5.3-6 ダムカード配布状況（月別集計）



図 7.5.3-7 日吉ダムのダムカード（サンプル）

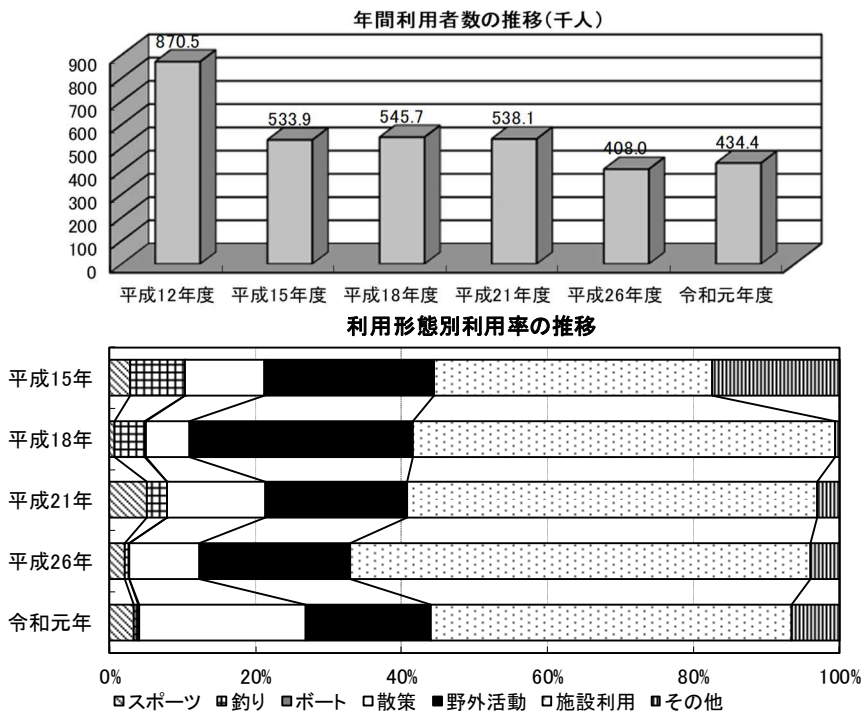
7.6 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

(1) 年間利用者数

日吉ダムでは、平成12年度、平成15年度、平成18年度、平成21年度、平成26年度、令和元年度に「河川水辺の国勢調査<ダム湖利用実態調査>」を実施している。

調査結果によると、平成12年の年間利用者数の推計値は約87万人（全国第2位*）、平成15年度は約53万人（全国第4位*）、平成18年度は約55万人（全国第3位*）、平成21年度は約54万人（全国第3位*）、平成26年度は約41万人（全国第3位*）、令和元年度は約43万人（全国第3位*）となっている。（*は次頁参照）

利用形態については、「施設利用」が最も多く、「道の駅スプリングスひよし」や資料館等、周辺施設の充実が伺える。また、散策や野外活動なども多く、下流の公園一帯の利用者も多いと考えられる。年間利用者数の状況を図 7.5.3-1 に示す。



ダム湖及び周辺の利用状況

年度	総数	利用形態区分							利用場所別		
		スポーツ	釣り	ボート	散策	野外活動	施設利用	その他	ダム	湖面	湖畔
平成3年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成6年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成9年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成12年度	870.5	11.6 (1.3%)	96.0 (11.0%)	0.0 (0.0%)	216.7 (24.9%)	145.9 (16.8%)	365.5 (42.0%)	34.8 (4.0%)	49.0 (5.6%)	102.2 (11.7%)	719.3 (82.6%)
平成15年度	533.9	15.2 (2.8%)	40.4 (7.6%)	<0.1 (0.0%)	57.5 (10.8%)	124.0 (23.2%)	204.1 (38.2%)	92.7 (17.4%)	17.9 (3.4%)	40.3 (7.6%)	475.6 (89.1%)
平成18年度	545.7	4.0 (0.7%)	22.4 (4.1%)	0.9 (0.2%)	32.3 (5.9%)	167.3 (30.7%)	315.8 (57.9%)	2.9 (0.5%)	7.3 (1.3%)	25.1 (4.6%)	513.3 (94.1%)
平成21年度	538.1	27.8 (5.2%)	14.8 (2.8%)	0.1 (0.0%)	72.0 (13.4%)	104.5 (19.4%)	302.5 (56.2%)	16.5 (3.1%)	22.0 (4.1%)	15.2 (2.8%)	500.9 (93.1%)
平成26年度	408.0	8.2 (2.0%)	2.8 (0.7%)	<0.1 (0.0%)	39.5 (9.7%)	83.9 (20.6%)	257.6 (63.1%)	15.9 (3.9%)	7.2 (1.8%)	11.4 (2.8%)	389.4 (95.4%)
令和元年度	434.4	14.1 (3.2%)	2.9 (0.7%)	1.0 (0.2%)	98.8 (22.7%)	74.1 (17.1%)	214.9 (49.5%)	28.6 (6.6%)	15.8 (3.6%)	16.6 (3.8%)	402.0 (92.5%)

(単位:千人)

図 7.5.3-1 日吉ダムの年間利用者数の状況

(データ出典: 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕(ダム湖利用実態調査編)、平成28年2月 国土交通省河川局河川環境課)

※参 考

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）

国土交通省及び水資源機構の管理中のダムを対象に、平成3年から3年に1回の頻度で、ダムの利用者や利用実態について調査を行っている。

なお、日吉ダムは平成10年に完成しているために、河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）は平成12年から実施している。

年間利用者数の多いダムを表7.5.3-1に示す。

表 7.5.3-1 年間利用者数の多いダム

年 度		1位	2位	3位	4位	5位	対象ダム数
平成12年度	ダム名 所在地 利用者数	御所ダム 岩手県 約89万人	日吉ダム 京都府 約87万人	金山ダム 北海道 約74万人	草木ダム 群馬県 約59万人	釜房ダム 宮城県 約46万人	91ダム
平成15年度	ダム名 所在地 利用者数	宮ヶ瀬ダム 神奈川県 約135万人	御所ダム 岩手県 約101万人	金山ダム 北海道 約73万人	日吉ダム 京都府 約53万人	三春ダム 福島県 約43万人	98ダム
平成18年度	ダム名 所在地 利用者数	宮ヶ瀬ダム 神奈川県 約157万人	御所ダム 岩手県 約96万人	日吉ダム 京都府 約55万人	三春ダム 福島県 約54万人	草木ダム 群馬県 約52万人	102ダム
平成21年度	ダム名 所在地 利用者数	宮ヶ瀬ダム 神奈川県 約133万人	御所ダム 岩手県 約100万人	日吉ダム 京都府 約54万人	三春ダム 福島県 約46万人	天ヶ瀬ダム 京都府 約43万人	106ダム
平成26年度	ダム名 所在地 利用者数	宮ヶ瀬ダム 神奈川県 約197万人	御所ダム 岩手県 約102万人	日吉ダム 京都府 約41万人	七ヶ宿ダム 宮城県 約38万人	草木ダム 群馬県 約38万人	114ダム
令和元年度	ダム名 所在地 利用者数	宮ヶ瀬ダム 神奈川県 約155万人	御所ダム 岩手県 約75万人	日吉ダム 京都府 約43万人	土師ダム 広島県 約33万人	三春ダム 福島県 約31万人	115ダム

注) 平成21年度対象ダムには、平成22年度に調査を実施した沖縄地方7ダムを含む

- (出典：平成12年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）
- 平成15年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）
- 平成18年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）
- 平成21年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）
- 平成26年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）
- 令和元年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）

また、利用実態調査時に実施したアンケート調査結果のうち前回、前々回の結果から日吉ダムの利用の特徴を以降のとおり整理した。

(2) 利用者特性

利用者層は、30代、40代が多いが、50代、60代も多く、幅広い年齢層が利用している。平成26年と比較し、令和元年は30代、40代の割合がやや増加している。また、男性の比率が高くなっているが、利用者の数を反映したものではなく、男性のほうがアンケート回答者が多かったためと考えられる。

利用者の属性を図 7.5.3-2 に示す。

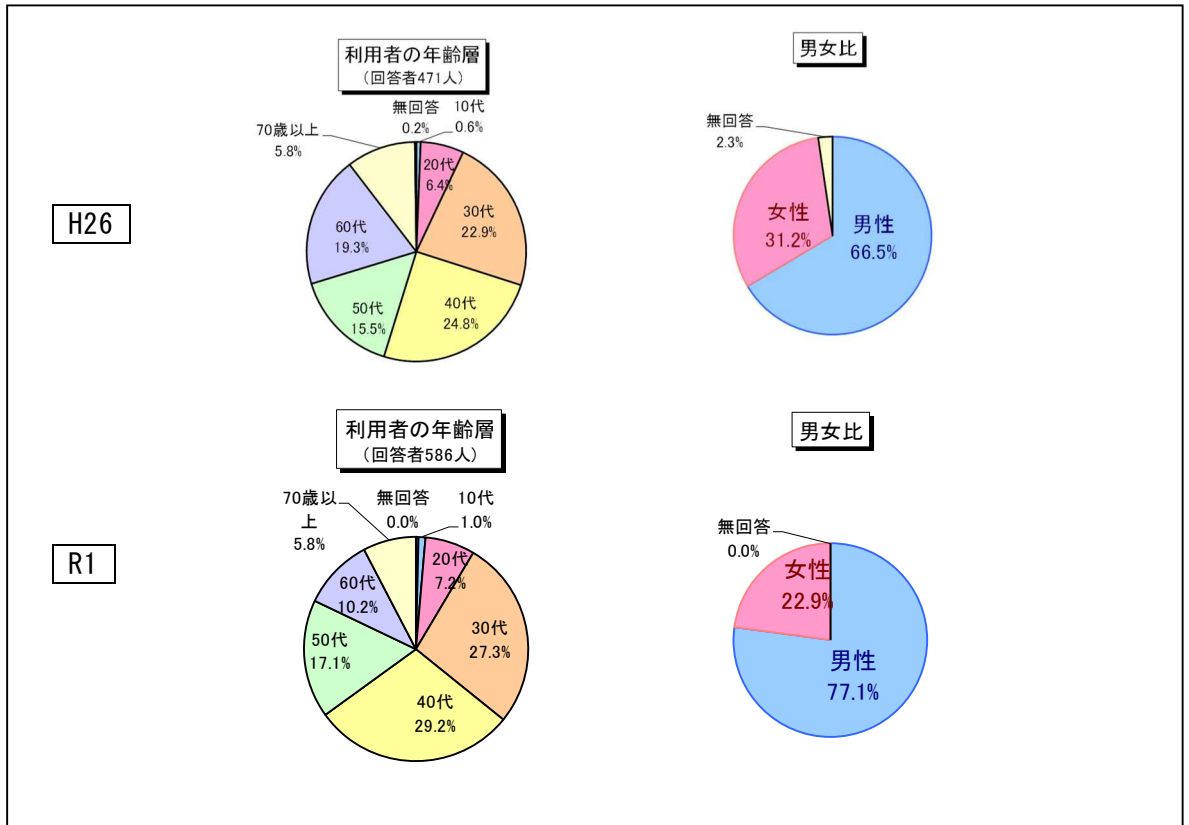


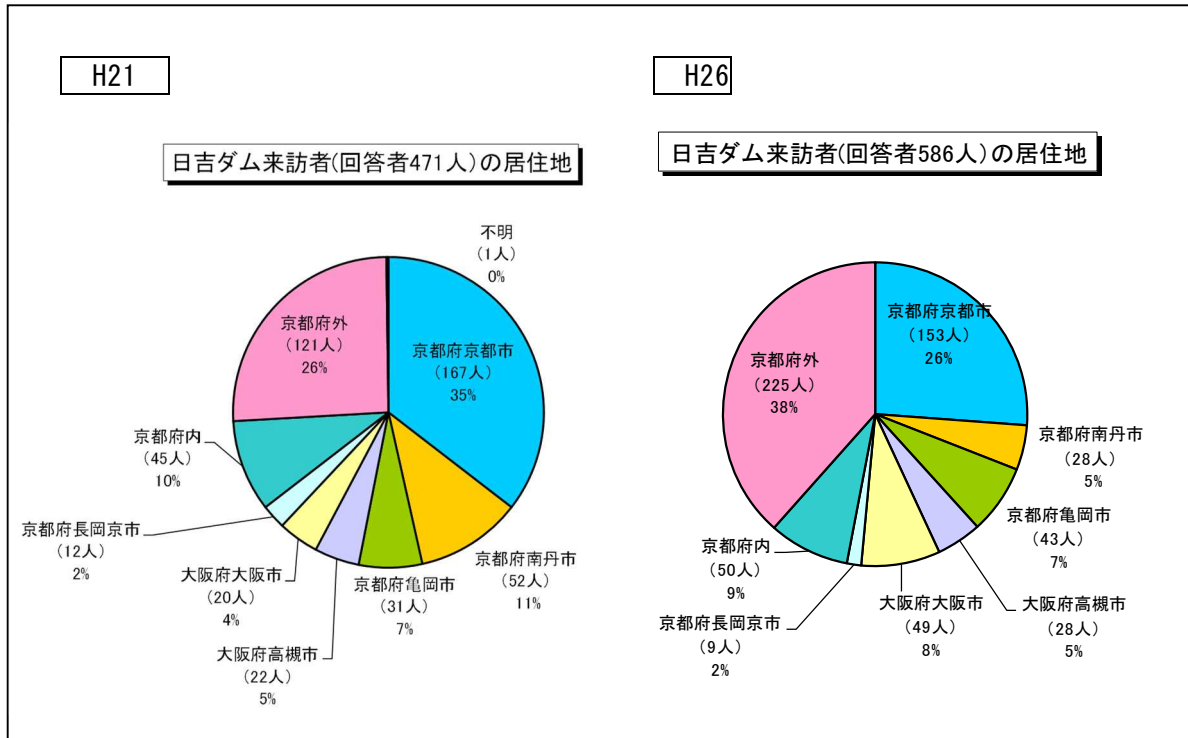
図 7.5.3-2 利用者の属性

(出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成26年度、令和元年度」)

利用者の居住地は、京都市が最も多く、次いで南丹市、亀岡市、大阪市、高槻市等が多かった。また、その他の京都府内及び京都府外と回答された来訪者も多く、多方面からの来訪があることが伺える。

平成26年と比較し、令和元年は京都府外からの来訪者割合が増加し、広い範囲に認知されているものと考えられる。

来訪者の居住地を図7.5.3-3に示す。なお、図中の市町名は調査時のものである。



注) 明らかな書き間違いと思われるものは、現在の地名で集計した。

図 7.5.3-3 来訪者の居住地

(出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成26年度、令和元年度」)

「以前に来たことがありますか」に対する回答を見ると、リピーターが半数以上を占めている。令和元年度は「初めて来た」と回答した利用者の割合が増加しており、日吉ダムの魅力が広く知れ渡り、新たな来訪者の増加につながっているものと考えられる。

利用者の過去の来訪状況を図 7.5.3-4 に示す。

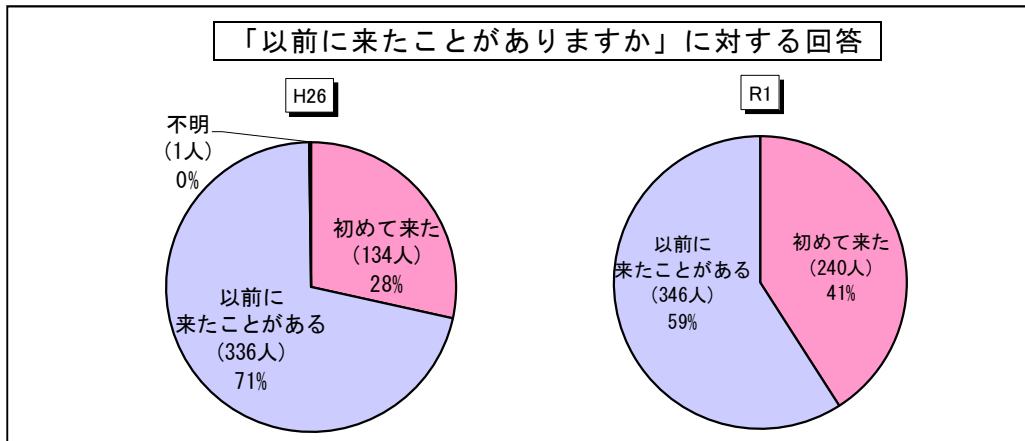


図 7.5.3-4 利用者の過去の来訪状況

(出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成26年度、令和元年度」)

(3) 利用状況

日吉ダムを訪れた主な目的は、バーベキュー、温泉、キャンプ、ダム見学等が多いが、平成26年にはバーベキュー、令和元年にはキャンプの比率が高くなっていることが特徴であった。道の駅スプリングスひよしのバーベキューガーデンがウェブサイトで紹介されたこと等が原因と考えられる。

利用目的を図 7.5.3-5 に示す。

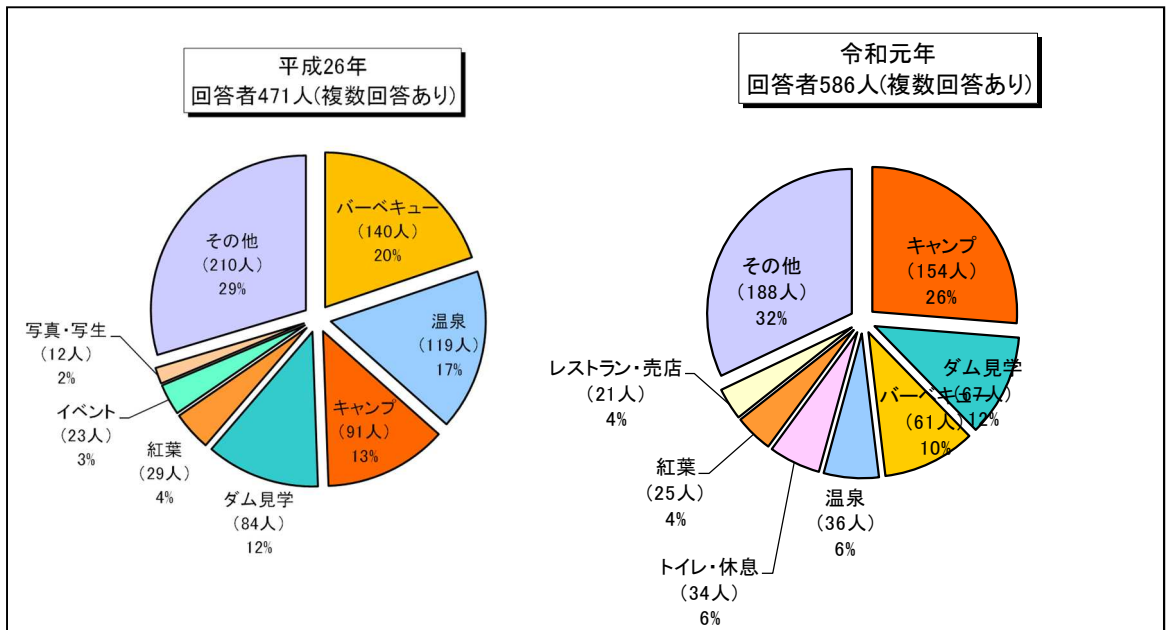


図 7.5.3-5 利用目的

(出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成26年度、令和元年度」)

滞在時間は、平成 26 年度は 1 時間以上～5 時間以上（日帰り）での利用が多いが、令和元年は 1 泊以上が最も多くなっている。

府外客の増加、キャンプ目的の増加などが見られており、滞在型の観光拠点として、広く認識されるようになってきているものと考えられる。

利用者の滞在時間を図 7.5.3-6 に示す。

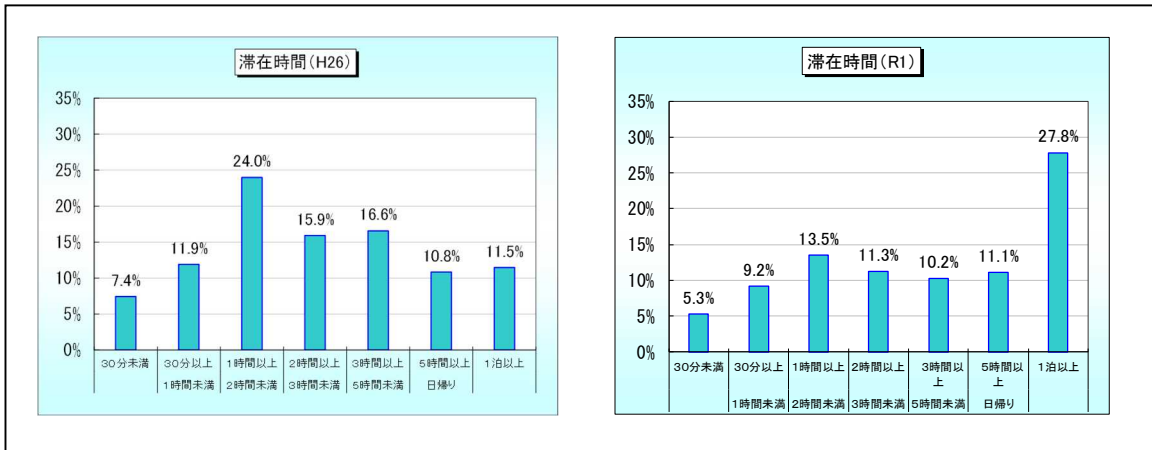


図 7.5.3-6 利用者の滞在時間

(出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成 26 年度、令和元年度」)

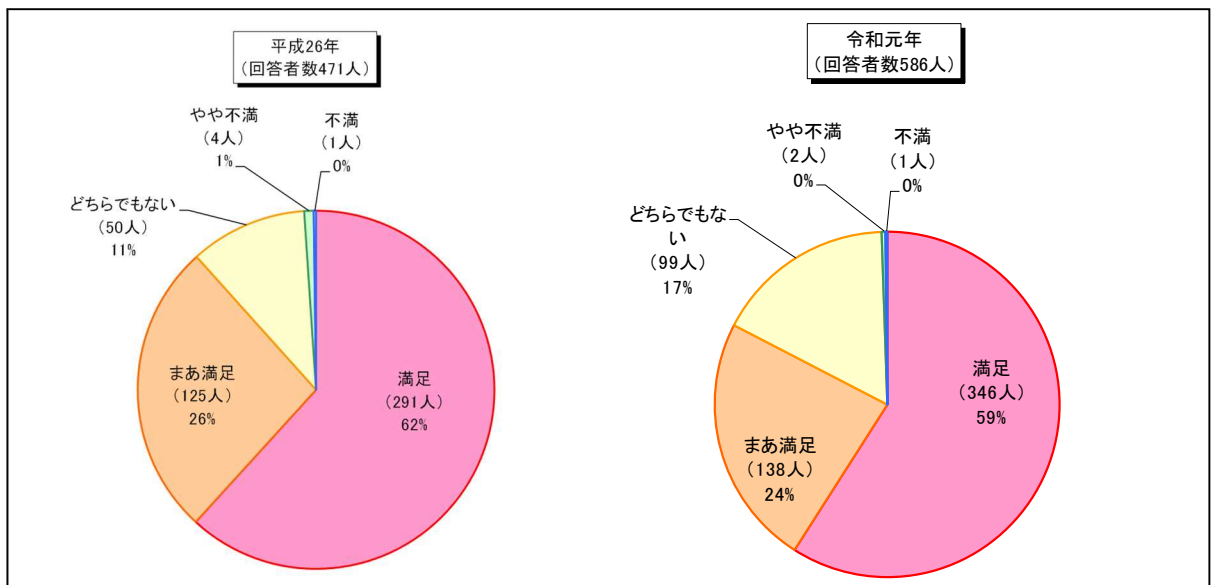
(4) 利用者の感想

日吉ダムを利用した感想を聞いた結果では、平成26年度、令和元年度とも、「満足」が60%程度、「まあ満足」を含めると80%以上を占めており、満足度が高くなっている。

令和元年度の「満足」「まあ満足」の理由として、自然豊かな環境や景観の良さ、おスプリングスひよしを始めとする施設の充実度に満足する声が多かった。

一方で、「どちらでもない」「やや不満」や「不満」という感想もあり、その理由として、設備への不満や、土砂崩れによって通行止めとなっていた交通事情への不満等の声もあり、今後の維持管理に留意することが重要であると考えられる。

利用者の感想を図 7.5.3-7 に示す。



※令和元年度のアンケート結果より（感想）

「満足」と回答した理由	回答数
自然の豊かさ、景観の良さ	55人
施設の充実（温泉、プール、ドッグラン、バリアフリー等）	34人
ダムの魅力	8人
その他の回答	5人
「まあ満足」と回答した理由	回答数
施設の充実（温泉、プール、ドッグラン、バリアフリー等）	16人
自然の豊かさ、景観の良さ	6人
その他の回答	8人

図 7.5.3-7 利用者の感想

（出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成26年度、令和元年度」）

7.7 まとめ

(1) 水源地域動態に関するまとめ

- 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の人口は、減少傾向にある。
- 日吉ダムは、「地域に開かれたダム」の第1号として、地域に密着した周辺施設が整備され、地元自治体も観光やレクリエーションの拠点と位置づけ、ダムを核とした地域活性化が図られている。
- 日吉ダム貯水池周辺には、「道の駅スプリングスひよし」をはじめとする余暇活動・学習・野外活動等の諸施設が整備されており、年間約50～60万人（重複利用者を含む）もの人々が訪れ利用されている。利用者数は、一時減少傾向にあったが、平成24年度に増加し、これ以降ほぼ横ばいで推移している。
- ダム湖利用実態調査では、全国の調査対象ダム約100ダム中、常に第3位前後の年間利用者数を記録しており、広域市民の交流・憩いの場となっている。また、幅広い年齢層が利用しており、利用者の満足度も高くなっている。
- ダム周辺では、「水源地域ビジョン」に基づき地域と連携した多くのイベントが開催されており、ダム管理者と周辺自治体等との良好な連携が図られている。
- 令和2年度は、新型コロナウイルスのまん延により、感染防止対策として、イベント等は「天若湖アートプロジェクト」以外は中止、施設も閉鎖等の措置を講じたため、利用者数は減少した。

(2) 今後の方針

- 引き続き、ダム管理者として、ダム周辺の施設を活かした活動、イベントへの参加等に積極的に取り組むとともに、水源地域ビジョンにおいて策定された計画を、関係自治体・地元・NPOなどと共に推進していく。

7.8 文献・資料リスト

表 7.8-1 「7. 水源地域動態」に使用した文献・資料リスト

NO.	文献・資料名	発行者	発行年月	備考
7-1	日吉ダムリーフレット	日吉ダム管理所	平成 31 年 2 月	
7-2	平成 26 年度流域環境調査報告書	日吉ダム管理所	平成 21 年 3 月	
7-3	地域に開かれたダム整備計画書	京都府日吉町・京北町・八木町	平成 7 年 2 月	
7-4	水源地域の状況	南丹市ホームページ (https://www.city.nantan.kyoto.jp/www/index.html)	令和 3 年 8 月 (閲覧)	
7-5	国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ	国土交通省国土数値情報 WEB サイト	H26 年度データ	
7-6	平成 18 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局河川環境課	平成 19 年 2 月	
7-7	平成 21 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局河川環境課	平成 22 年 2 月	
7-8	平成 26 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局河川環境課	平成 28 年 2 月	
7-9	令和元年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局河川環境課	令和 3 年 2 月	
7-10	日吉ダム水源地域ビジョン	日吉ダム水源地域ビジョン協議会	平成 14 年 3 月	
7-11	水源地域の状況	南丹市ホームページ (https://www.city.nantan.kyoto.jp/www/index.html)	令和 3 年 8 月 (閲覧)	
7-12	京都府の出来ごと (年表)	京都府ホームページ (http://www.pref.kyoto.jp/nenpyo/)	令和 3 年 8 月 (閲覧)	

表 7.8-2 「7. 水源地域動態」に使用したデータ

NO.	データ名	データ提供者 または出典	データ発行年月	備考
7-1	国勢調査結果データ	総務省統計局	令和 3 年 8 月 (閲覧)	
7-2	平成 18 年度 ダム湖利用実態調査データ	国土交通省河川局河川環境課	平成 19 年 2 月	
7-3	平成 21 年度 ダム湖利用実態調査データ	国土交通省河川局河川環境課	平成 22 年 2 月	
7-4	平成 26 年度 ダム湖利用実態調査データ	国土交通省河川局河川環境課	平成 28 年 2 月	
7-5	令和元年度 ダム湖利用実態調査データ	国土交通省河川局河川環境課	令和 3 年 2 月	
7-6	周辺施設の入込み数	日吉ダム管理所	H10~R2	
7-7	国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ	国土交通省国土数値情報 WEB サイト	H26 年度データ	